天治二甲子年
淡三月 斧而習
七年徳
右京堂五月廿五日
可笑亭
喜樂

津田文庫
文庫1
1628

太白堂芹連月与合拔萃　甲子二月分

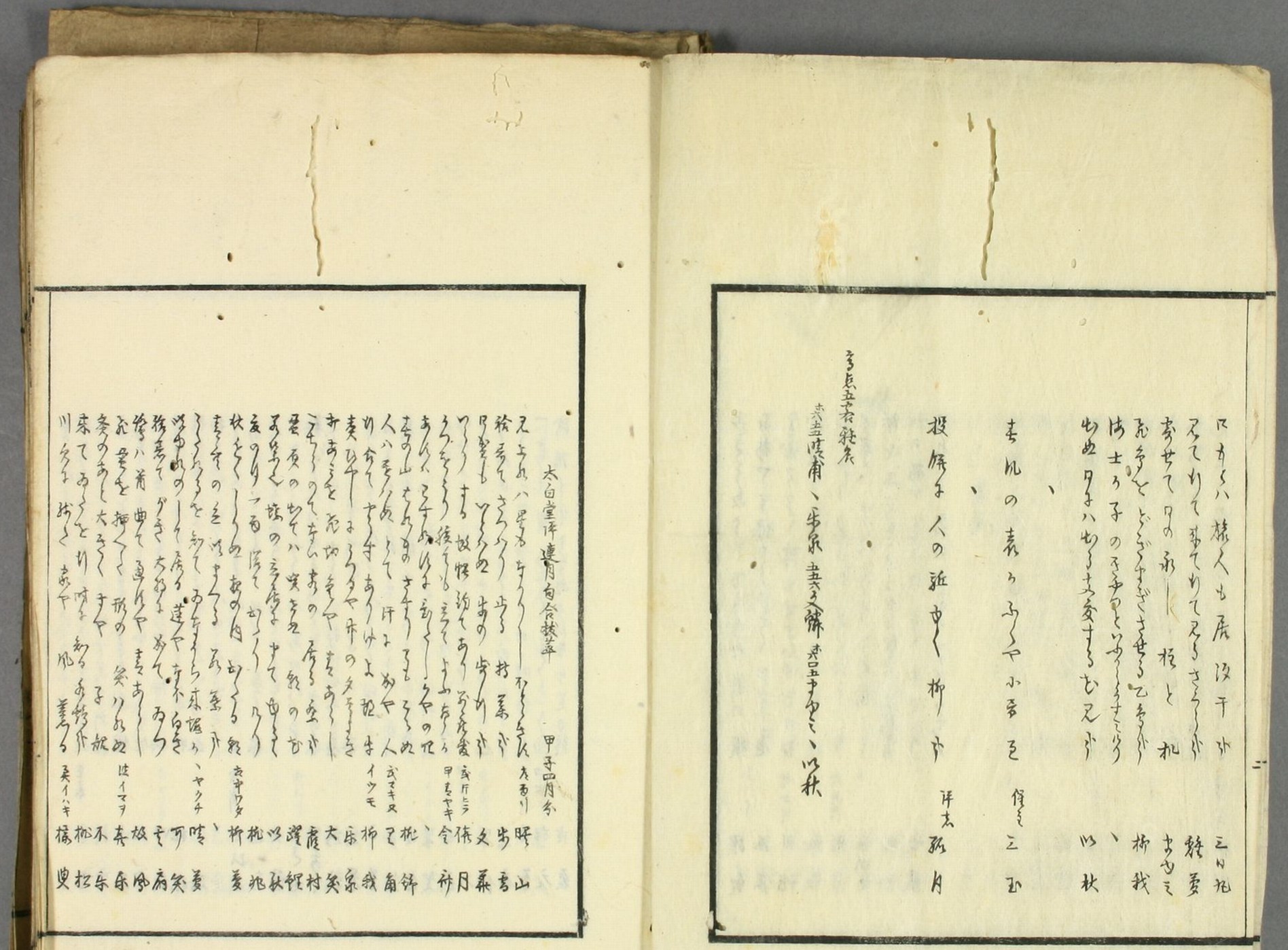
傘をさしかけハてあるよ　つくれ　以俳
大勢ゴ　ちりて　ちらめ　春の旅　甲子マキ　金糸
春の　待　代　立　ふ　て　待ち
日の　ひ　ふ　し　て　男　子　第　ぶ　武大代　車　老
第ヤ　第　よ　い　枝　の　ある　ヤ　ち　巨　松
ち　ち　ち　ち　大　ち　ち　ち

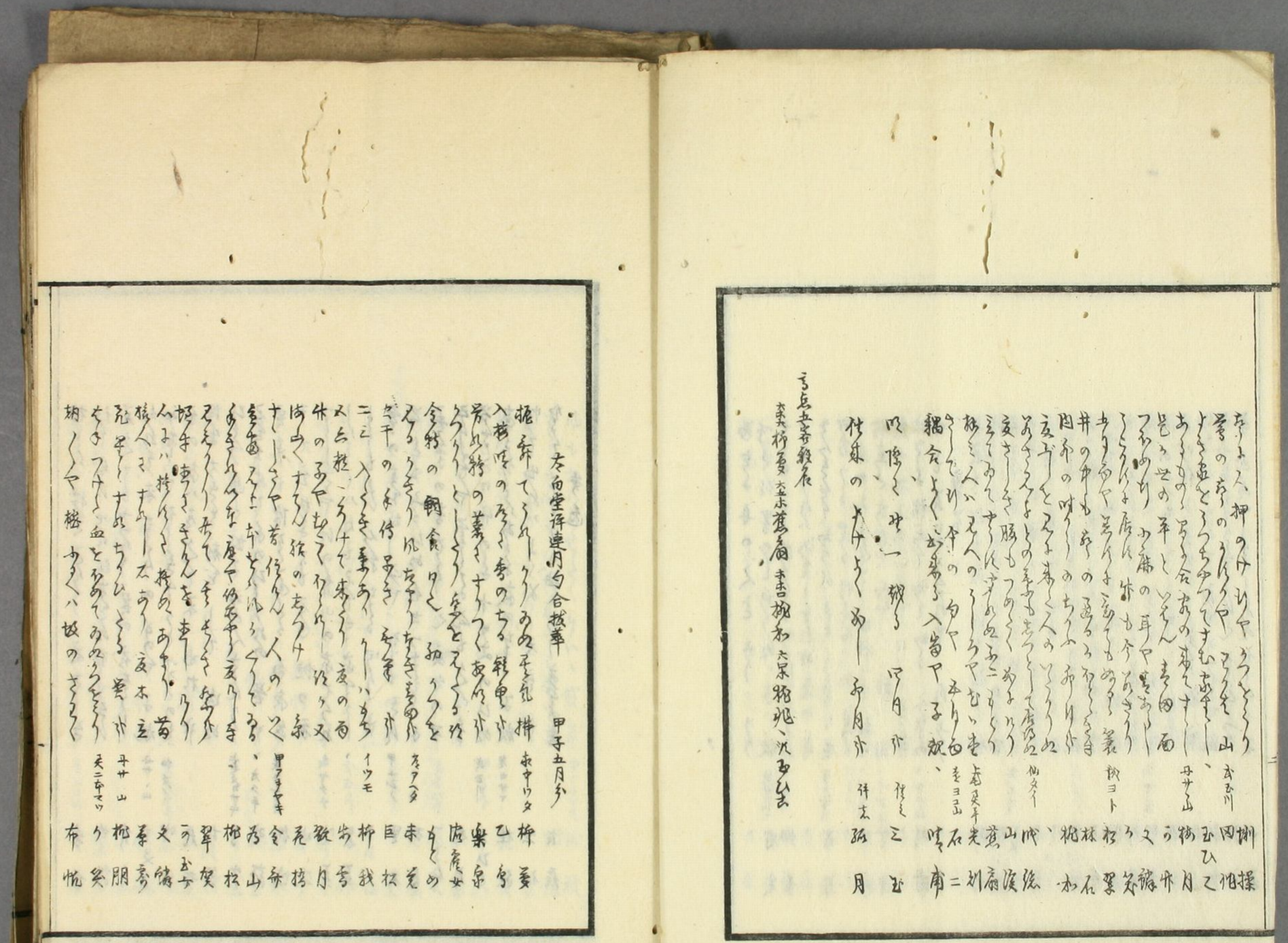
さのはすれ寺にハなかりけり　井入
梅が香て咲ぬに花の梅に　湯李
ちまで読れて投出す菜に　丈肩
梅が香てぬきそふ待や旅の中らき　錦鉢
青柳や生れ成る水る　松江
ちからにかさる口や梅りときき　花蝶
あけむけてくしろに見し初雛　放風
春山の雪拝てその羽先に　山濱
角花く散りてあるや初のしら　梅川
初陽月菜男にあてきりぬ　一美
胡六の梅に来てこぬ花の春　歩雪
春の君人美ひまてよりけり　秀介
縦先く生てハひらうし柳に　果山
能多に言る書あり　蚕桃　肩森
そのちらの伏屋ろつやくる丁　九起
春るの座石たりし降らし　雛晨
一霞かゝるかくる残さし　雛鞍
みすらいよ柳のあそく人すち　宗お
青のして都に来ぬ春の香　文餅
一楽

上きしぬうち　からあの雛の猿
み梅や手帰りのそく　沙中庭　硯館
主我らりく降もせまいがきの香　西森
残雛のころいのよいのりありぬ　田仙
己りすゝる名に初ころく四月に　桃秋
せ果と　乃唯ちりへ尺塔――、　用月
旅をふさきさうゆる初音鳥能木　玉ひて
紅の梅や春になりく山ちくり　梅玉
花かくろ霞のかかりの入にうち八、　古森、

襄足

凍霧ら垣赤鉄のくりけり　一声
見とての古さ名山や残雛　こゝろ女
あする青の三尺春の香一枝　晩甫
いころ泉の梅あて下れひりけ　楽泉
首くらにて初れけり夜の子　吾甫
お代の春きころ風霞の花さけ　霞村
さの山あろの花人ハあさけり　井入
おちりて雨る丈夫のぬれてあぬ　松松
見えしの花ちハ手し出勢し子　梅叟

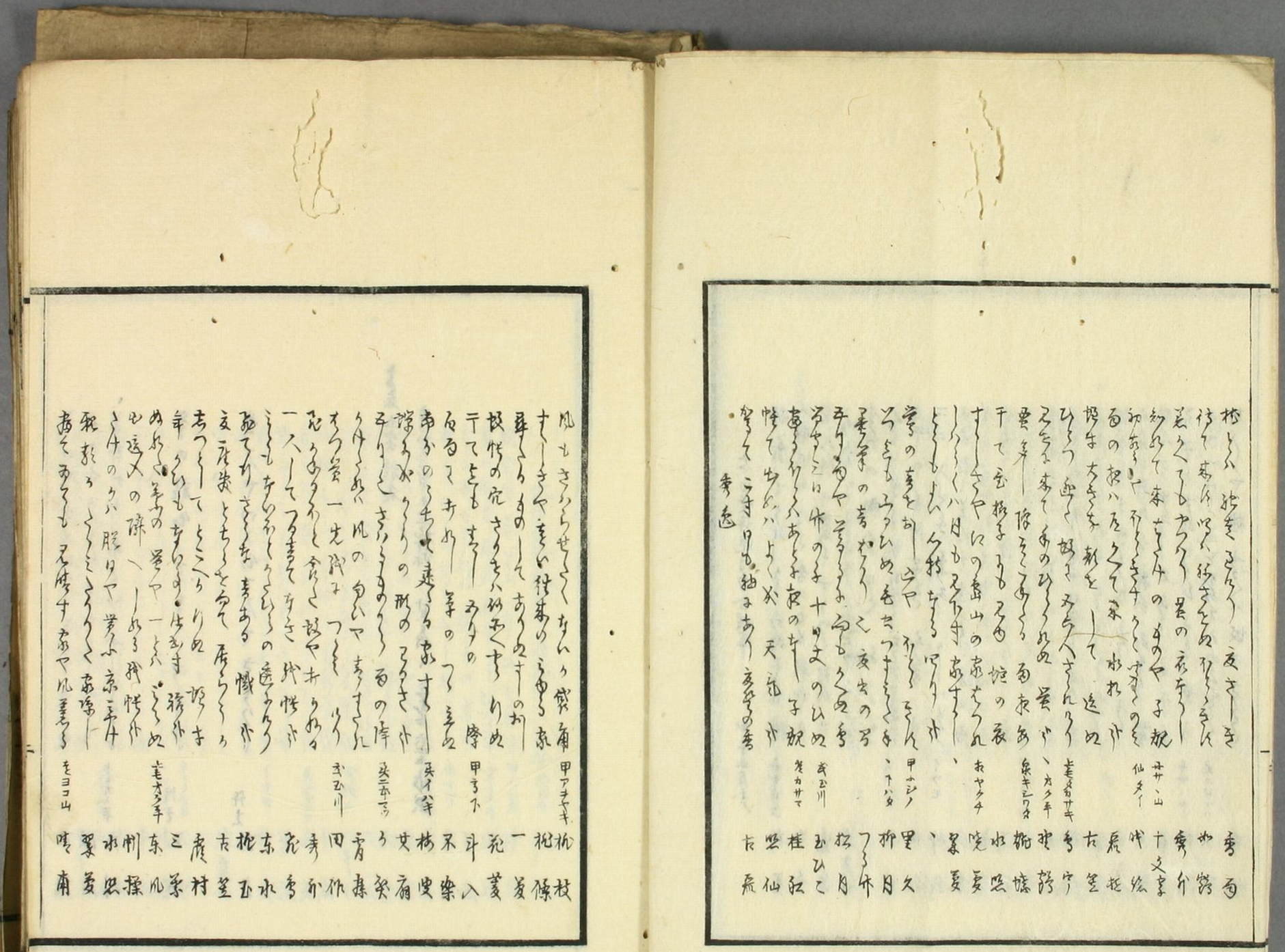




言葉書類抜

文政十年 舊稿 書概初 六冊 概況、以下仮題

拔華てくれ〳〵のあの天気 排 ホヤウタ 柳 葵
入拔性のろく秀のちる 鶯甲 乙 乙 樂 泉
月見鶯の蓁〻すつく 表 ウ 慶安女
〻〻〻



雲の峰きのふさらなの中みちぬ　巴陵

月の面さはらや すゝき見えそめて　秋石

芋畑の扨ゆるなといふしらつ音　上毛方ノ平　光外

梦の精出して寝し門のすゑ　信夫　三玉

虫の声や寝ても出て居てさむらし　杵志　孤月

高点五客雅名

東都巻多・壺中極緑・文扇・三泉・壺五水哭

太白堂評連月句合抜萃　甲子六月分

捨て舟上ふ乗の高さ秋　甲下八文　月

墨の夜や涼しく落しけ　上毛荒平　光外

する不ぬ何の花　巨松

新奇のさす奇しれさ秋　九世中　武西

ひるかぁ二人此を秋くの中　甲表中キ　金高

生れ人のたゝさ不や乃の中　糸泉

蝉のなし人け一生涯し　大笑

流さらし九々す七　壱横山　一鴉

寒く寄きてすはなて存る宮秋　いまそ

袖袂へる寺内の花秋　之府

近て居光のつるさ秋　夷二本松　二の笑

蕣して見ぬ声のありつ秋　茶我

余のそさく近て雪の栄　イツモ　柳我

萩のうらん月と翠さのそねと　、流霞女

艸の迄しんとする秋すゝし　、

代糸の二度くしさちのつみ　吉ノモ居　玉里

こそちの冬索しく東内秋　、ヨコ山　陸甫

朱直にふけてちらし起きの花　布帆

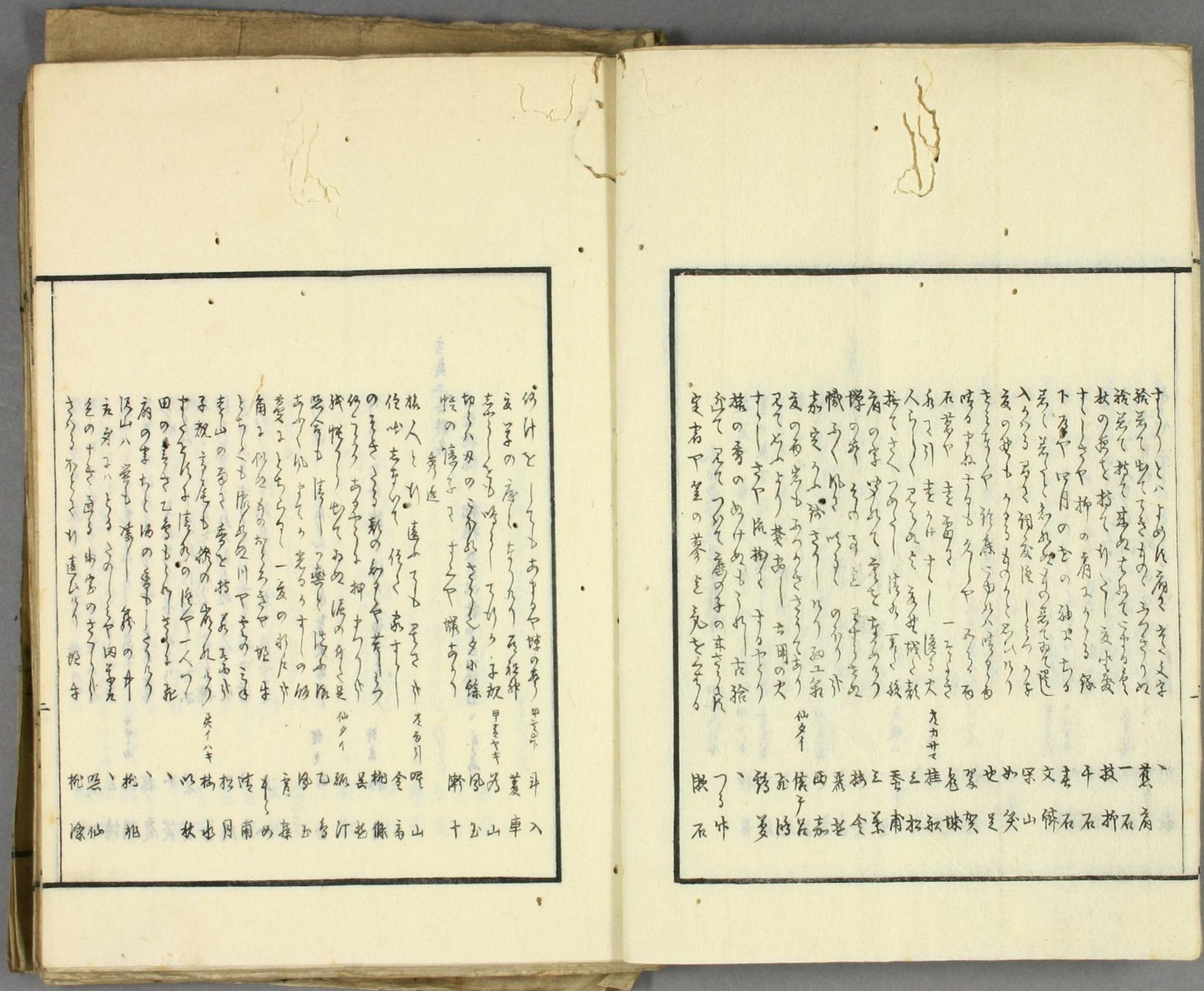
ありすゝめちみの秋り　不糸

菖蒲みくやつかりける社すも　五雨

手山をふれ山の京さし　夷イ八キ　古りう

又古家娯つりぬ子習婦の宿　、

菊や売とへとりも宇とぬれ　以秋



咲もさうき萩も荒くなり枕の山　深山
影の霧のまあり麓の背　尭か
草丹ても見る月やさうの景　玉蜂
妻くして見たけれ名事にし白山や家の　桃朋
手市のひけく白山や家の　母サヽ山　櫻庵
蛇桃りけてされもう名子妙子り　如笑
ちとうしとくの江山中し玉不　ヽ翠賀
志つこうく見えし見子挿　之素
約て歯てうね八知れぬ上の完　巴旋
之のあるたうく旅の行　枕玉
さく了てを好れり秋を行水子　斗入

ヽ

判氷のうけん上うを犬なか　借ゑ三玉

ヽ

打ろうたけ渉く流りの声さうり　拝志孤月

右兵五客發名
六五枕條、枕兆　六六口以秋　中六五口風玉、まゐ

太白堂評連月々合抜萃　甲子七月分

よくころれハやさしきうわよ冥角力　采泉
ヽ
鵜まうき花をきさしらて　款亦　玉友
うちさしとめおと私堀ふえの　武サカハヤ　廣蒸
ヽ玉川
むうりや笠みく壽を一葉ひ　巨松
萩ハ森うさ萩う不んの寸んさうり　イツモ　折我
よろうよ桑ふきそうし見さうり
ヽ
ささうあうくニやまりハりうさうり　流花女
光さ女子末うしれぬ菜うさきく人　大笑
辻角力翁て大きな子けるさしぬ　翠賀
毛木さくおしぬやうすよ知もさち　花山
雜ぬめうりくきし菊日ふ　芋秀
旅ぬ出る仏の旦や下の寿　一石
ヽ
汁の空をてつきくてしうぬ比さの秋
あさうめて上ろし秋の雑ぬもの　松ヨト　松月
蜻蛉のつうえあらや牛の角　巴旋
とうまうをそやうのハさん雲の案　イツモ
秋の故の角ハ昔をとくのう　山濱

[illegible] 秋の樹の猶
[illegible] 宋山
[illegible] 五百
[illegible] 柳孤
[illegible] 青森
[illegible] 秀外
[illegible] 秋の上
[illegible] 蕉扇
[illegible] 信子
[illegible] 雪
[illegible] 月
[illegible] 子
[illegible] 安
[illegible] 松巷
[illegible] 白雪
[illegible] 行
[illegible] 千
[illegible] 蘭藻
[illegible] 秋

[illegible] 秋柳
[illegible] 月
[illegible] 松
[illegible] 柴
[illegible] 濱
[illegible] 玉ひと
[illegible] 脱衣
[illegible] 柳多

秀逸

[illegible] 山
[illegible] 甲アヤキ
[illegible] 舟
[illegible] 大矣
[illegible] 白雪
[illegible] 一石
[illegible] 桃玉
[illegible] 黒山
[illegible] 田仰
[illegible] 千扇
[illegible] 楊園

[illegible] 秋の[illegible] 文鮮
[illegible] 玉垂
[illegible] 翠賀
[illegible] 如笑
[illegible] 夷石
[illegible] 西嘉

[illegible] 秋の山 甲子下 平八
[illegible] おやこ子 翠美

[illegible] 俊之 三 玉
[illegible] 許太 孤月

[illegible] 五宴雅名
六五二の名安 六四大笑 六五文鮮 六五白雪 六六一石

[illegible] 武サカハマ 有友
[illegible] 巨松
[illegible] 甲まやキ 金赤
[illegible] 桃枝
[illegible] 朱泉
[illegible] 流震女
[illegible] 玉博
[illegible] 桃木
[illegible] 柳泉
[illegible] イのモ 一石
[illegible] 雪ま文 竹吉
[illegible] 桂舟
[illegible] 雪月
[illegible] 歌月
[illegible] 柳震
[illegible] 朝鳥博
[illegible] 翠賀

井のふくと兎てしりりのきの秋　雙柏
送り迎ひの夏あり辻角力　故風
萩のひやゝ引裂紙も秋の声　、枕耜
秋の旅ゆけるほどつゝ目子のり　枝柳
打てある鼓ほとゝぎすや秋のてふ　冬扇
小角力の倒さつすみてとろりの　青林
若がし川の湖ある　芒ゆ　松翠
秋のひなおりてうきしてすゐりヨト　布帆
そうらうおりのきひらし秋の夜　秀外
衣砧や露の好りの遠音　丑廿山　十文字
萩を見よりて来てふく手足ゆ　うの玉女
生ゆうく気も見きらし　末　以秋
いつ来ても　いつもの末ぞ待の夜
夢をえよ中よふいろめいろうき　、
お肴のおとき飛込　姑ゆ　ホヤク子　暁夢
歌も子も時らい人よつるのゝく、　翠夢
ふ寒して屋子新ある　孤ゆ　霜杞
ちひさきハえてし嬉嬉の日子なり　納夢
萩鏡き岩砂る　后の旅ゆ　松翠
夢あふり落ちる螢籠のらくと　鈍史
てふとおこりも落く日ぞ相一葉　甲麦ヤキ　為山
徒り詠みてらぬるて旅の若芽の秋　、タカ方リ年　入

憐一帰てこゝらの世めかで、
木のきおりもつきりく秋の山ほり　、柳芝
孤雲のそしめや坂能の足さうり
夢らみのもくらそころる部作ゆ　文ア年　曙山
住むよし白もおもひもむの夜　、赤笑交え　蓬
ちらのと目子のきして寒し　月本ゆ　、江玉　秀林
帰るかくさきしくしくり　玉柔　、

秀逸

夢ゐえて一出しりり秋の雛　冬友
二名る来のや中をゝ松経御るり　鳳尾女
峡丈八追てもちらや　くつこ去　松條
投らん〳〵青のうらくしつしすまふ　元詩
くゝりし　娘や夏見もうく秋子　巳旋
たぬけよ抑てこきてる　お火ゆ　武玉川　因佗
羽斗を金打　冬や　冬らく　一石
相一葉　母ハ近ちらく描りり　兵イハキ　土両
行ら来てしくらく　なふ一葉ゆ　雙柏
言くるころくり月の面あるし　故風
さんあてくしみるや秋の坂の力　枕超女
旅の絵一しきりよめて　あみ　法イマ子　春斥
返く夢へうして　仕舞　枕ゆ　青森
秋の紙うくさよ春ふ来く山も　秀外

文鮮　以秋　彩雲　耳　松玉　喫山　文玉　めぐ

月の矢うを　伊之　三玉

人あり　峯の月一枝　伊太　鶴月

言真立寄能名

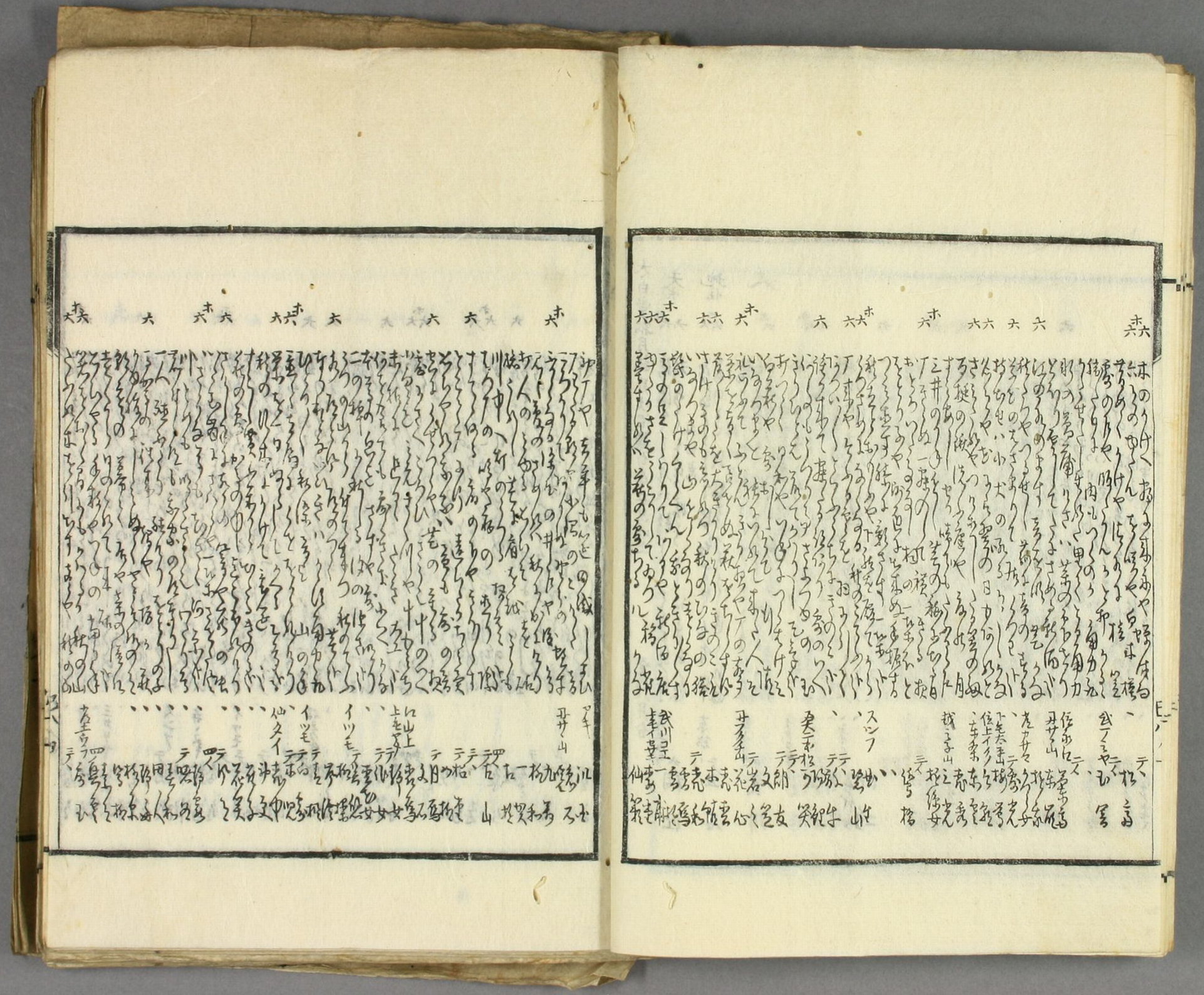
六六五　一　石　以秋　五面、青嵐、以之文鮮

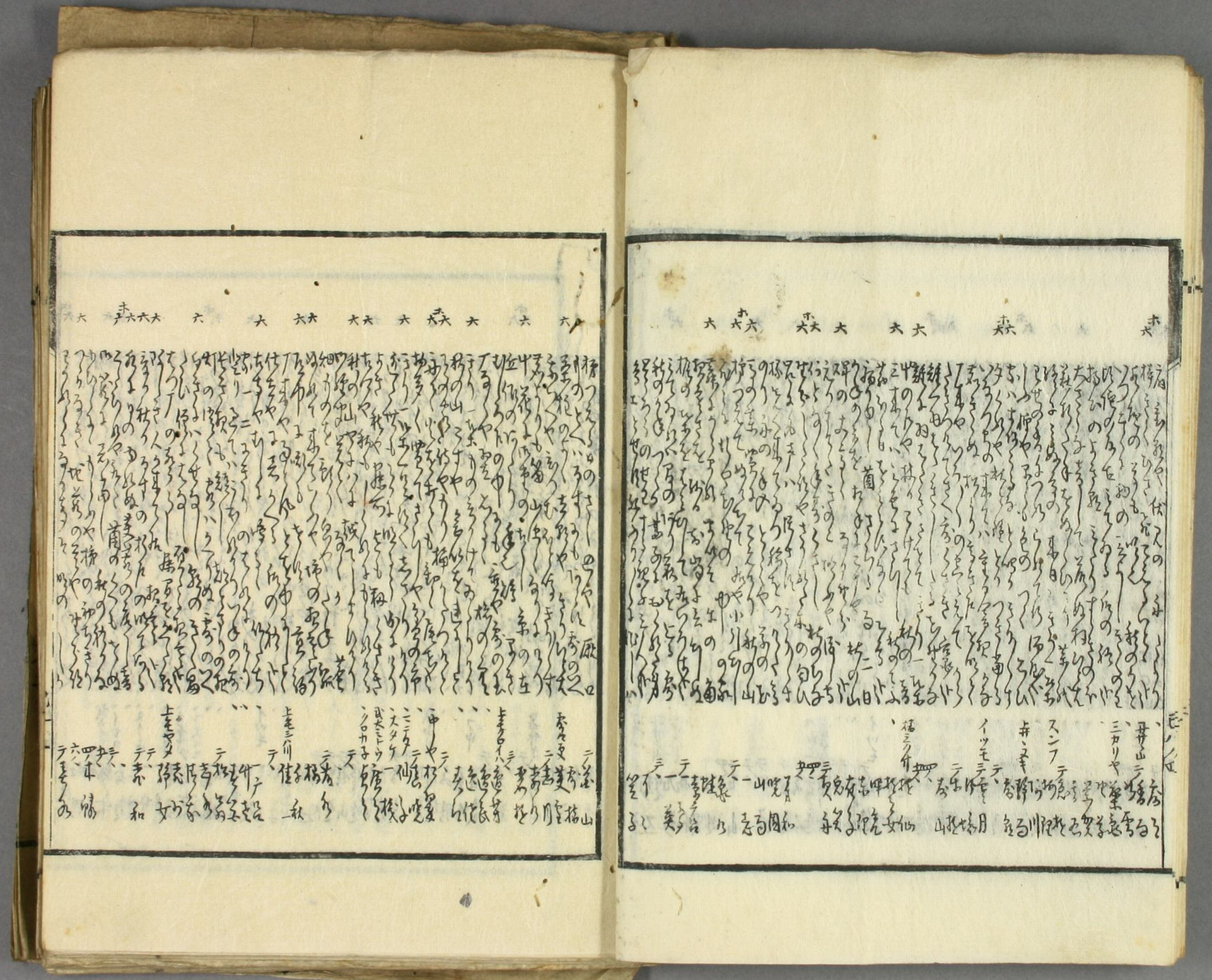
天　六　桐江

地位　六　石

人　六　川

六　六　六　六　六　六





太白堂評連月句合撰草　　甲子十月分

歳暮　歳を上るく　入あきぬ　甲アラヤキ　今年

猿　梢や　空を　淀て　まる　ん

冬の山　谷れ　くく　ぬて　ぬ

くもよく　果　あき　みく　梢　くく

又てあれハ　ゐも　又て　あり　秋の　菊　九起

ゐあ　糸　すく　や　赤　京ハ　柱　ゆて　三音ヶ呂

くく　む　又　て　ある　内　く　あく　ぬ　九起

乃ふ　ち　し　と　そふ　ろ　つむ　年　木ど　東泉

人の　乳の　よ　く　梢　ふ　る　十　お　ど　おヤクチ　宮美

猫の　上　を　家　茶　る　山　茶　ど、　松美

槽　ゆ　く　く　梢　く　投　込　ふ　ん　ど　ヤワタ　梅美

梢　色の　空　く　と　ひる　ゆ　あ　ゐ　巨松

乃　く　ん　を　て　腰　を　く　空　の　ふ　の　武五川　円作

ふ　山　を　汗　ま　て　ゆ　年　の　ん　れ　イツモ　梅素

う　の　空　も　徒　う　せ　て　美　ふ　松　ま　、　、

ま　う　ま　ハ　ま　の　い　ま　く　ま　海　ど

乃　く　く　ま　く　く　ま　ま　ま　ま　海　の　い　く　ま　う　ま

うつゝにもぬよ人の心ふるひても　半里
二階の戸明て見つけつくつわむ　梅花叟 桂女
あら袖く抱くて来る霞かな　むつ女
日くれゆきてくれ見へる残花かな　鶴夢
巨燵出て来て佛のこゝろかな　鶴鼓
末よえの来たるは雨や ねぎの味　郭雪
らん秘新を並べて納豆汁　讃岐サキ 松葉
修まと思へる声の遊れかな　枕松
雪の響とちらく夜さのわかれ寸　魯森坊
炭俵ゆかけれハおかしさくらかな　放風
風ともならば海のうらゝぬハ　武揚ハマ 瓢翁
いまつまや嵐のよる舟のへり　蕎面
待る坂のまくや花を陰くゆと　、
まゝ梅や明ぬハまてしぬゆり不　宗山
くゝりむすも人のうらさくらかな　布帆
まさき帆子ひのきそす浦のしくれかな　流霞女
関ゝしく黒のきぬ衣や明けゆる　圳操
青葉の空も身ててゆる ゆきかな　呉桂
手をあらふ新みて枝て来ぬ霧の朵　文錦

其や一きの小麦や初くも東の方　枇兆
明て居て更ハきて〳〵寸 野の声　古霖
露の佛も撫てさして行雪の中　秀外
女また又さし〳〵有難く年　武玉川 玉ひく
しられ薬生しぬ迷家の影れ様　菱車
小鳥や月見ハ不二もうしろむく　以狄
よう手を使つ守れつ十秋の花　甲斐やまき 乃山

霽色

云ふくい初くりうむ　ゆきさかな　甲斐やまき 枇枝
遠山や一ノへま青子ある　武玉川 因依
迄くりハ咲くりよくりも多きかな　春扇
覚しき青しで落るつらゝかな　巴旋
石も挟く押込む霧の力かな　林石
家ハ来さますくる枯ゆきの声かな　青森
風の音中子・桜の玉章かな　、
寺築の菜や初稲子巻くるかな　宗山
食あふ子霧の鳥の行る山家かな　流霞女
浮寄新まのきくあふ因かな　以特
咲ハ手もつけられぬ湯燈かな　、

[illegible]ようにうつくしく楽の音きかん
[illegible]人は後引はなせる事なれば
[illegible]る丈 [illegible]すゝめくめる
水の上 [illegible] 事の カ [illegible]
人々名を [illegible] 文藻
面のゝよ事のうつくしく [illegible] 秋
十月と [illegible] 十日
四条の [illegible] 入り [illegible] 甲子下 汁入
桂芦子 [illegible] 俊之 三丑
古歌 [illegible] 列者 孤月

高点五客題名

[illegible] 因作、文藻、古歌六六五 甲子下 人々高歌 [illegible] 秋

太白堂評定明月合撰華　甲子十月分

[illegible] 甲寅年 文令 生 楽泉
[illegible]
[illegible] 三ヨイ 文藻
[illegible] 扇園
[illegible] 花恋
[illegible] 初東女
[illegible] 時爰
[illegible] 松爰
[illegible] 柳我
[illegible] 文房
[illegible] 甲子下 斗入
[illegible] 武ひ川 田他

時鳥ふ声をおしむ秋や春　錦步
夕顔のぬれぬ枝そ咲きけり小家の軒　信言
風の底てふらふらと形のなり　㕝イハキ　五雨
初春や垣根の中ことしる柊　半甲
雪ちりしそれてゐる神子に　采山
梅さくもしらぬは底から見ゆる間に　以秋
旅人もとしれぬをせぬ餘りに　、
家もちと涼しさや餘り　風雅
行かしら腰して鳴れいろの光　、
ちらちらを見る竹の音も遠く　布帆
枝そりに人ハ戻らぬ十夜かな　錦步
秋のしつむ本から来し梅の香　錦夢
また梅の底て来つく伏け　、
春なれや空もいつも茶うち　敗石
端居をわすれかけし月の雨　西赤
まつ山の見ゆる峰を行く寒さかな　う傑女
秋深も好みよるて上く寒き　枕和
雪の夜を来た春の雪のえさ　巴旗
ぬくめられし寒き餅ハ来てつぶく八　枕紀
ねむるも返りハ来れり墓の花　㕝ヨコヘテ　松居

　　　　　　　　　　　　　　　　常夕女
来ておくれて風し紡ぎの寒さかな　有友
そりとひらひて来人こころつ子　㕝核八ツ　九起
来ても ちかきの来 あらく 新の和

　　襄英
新しき見をもらひや春の月　全生
帯かけて西もりの帯る寒さかな　大哭
れ長番をとまりても ぎや寒さ凡　翠賀
花も忘ふこうちの打かぬくめ香　錦安
音くても秋のか寒れ衣の不　巴旗
会はや　寒れさく　咲く中か　枕松
ちらされ底の枯野をこして来さてもち　丈葉
誠こうし見れハ人居つ枯野かな　う学
夕け行のよくられハあか寒さかな　枕朋
あき力打てこくや十夜鐘　林石
雪の丈おもれくや川のこころやう　大哭
依さのハ声を何か雪の竹　風玉
日さかりや茅もみえ初さ色　う傑女
小春の日の来て鶴の羽のうくはけ　枕兆
もしかくら網を来つし心まかす　㕝ヨメ　古燕
日の来大柿川あき二つぎかり　九起

おこさ　老ふ人と　こゝの　泊を　春の　不ゝる

よくきけハ　あさましきかな　山あ　侯こ　三　玉

太こゝろ　むこゝの　あけの　ゑゝ　評太　孤月

言点五番

[illegible]の傳女　妻大笑丶　全　文鏡丶　甲言下　斗入

太白堂定會拔萃

春の山　敬月
[illegible]　橋星
[illegible]　以秋
[illegible]　宋山
[illegible]　樂泉
[illegible]　彦皷
[illegible]　梳松
[illegible]　丸
[illegible]　文少
[illegible]　桃孔
[illegible]　花山
[illegible]　風玉
[illegible]　鏡少
[illegible]　眠徐
[illegible]　古笙
[illegible]　丸
[illegible]　風玉

山陰　百首

逢月　桂月　撥石

竹特　紛　枕玉

初春　春の山

文鋪　梅令

切操　古泉

美の山　人ちの山　夫の山　梅　白ひ　木こ　梅　白ひ　来　梅　白ひ

四秋　樂泉　青森　眠絲　百石　撥石

春の山しらぬを恋しうらぬ　松玉
春の山ふもとをめくりてなき　巣鶴女
学て春くらゐてしまひけり　古系
うらひすや生涯佗ふ身のくせし　千然
田をめくる春もきこえてうめの花　仙実
畑打てうめのふもとにて梅の花　好考
たんほゝをちらしくて向りり春の山　窈風
うらひすと見て学をのちさかな　玉川　文寵
梅は松をくくて上れ舟の中れ　斜鉢
春くるをりよの命や梅の花　桃格
家ゐ合や大根からきも梅くさき　丹朋
掃溜のちよいくゝ寄ぬ春の山　未松
うらひすの鳴くる枝やちよいとのく　古里
途中から羽織ぬいてうめの花　ゝ柔
うらひすの声をうしろへ奉りうり　地友
春の山溜の底もしうぬりう
春はとの山もして居る字形
そゝき若玉　鶯の音声かな　孤月

呼子仙雅名
悦貧　古秀　古雅　好風　文錦　東丁　古系　全　眠綠
冬青　吟秋　暁石　松玉　雪来　仙考　斜格　丹和　吟秋　古系
春飽　きし丸　古系　松虎　きし丸　東雫　示泉　鐸雪　祈翼　千然
梅朋　万丸　露雪　風玉　六笙　廿九ちま

太白堂評連月句合抜萃　乙丑三月分

炎好子手さく祝の底二日かな　丹サゝ山　雛
うきうゝりひろしく一しくしぬ演　宗
八時をの障やそうも来らしき　西
う雪や春未く冬さき宗心　文
追て来もうる帰えのつさかな　ゝ
乙雪や命ふ匂りもひろく足世　柳　ねやかワタ
姫とあうり新しき　つまやかな　ゝヤクチ　暁
勝敗の也先や毎夜帯しるし　羊
山きて見て耳塵めりり角　歳　此ナカッタ
地にこえうくと穴を也る日かな　九
手をゐてつさらく　しくり古雪　丑
山うるやちらうくあ年ちしる　梅
学やつちやすり辻をしくて　祝く　暁　武玉川
行かくや近て仕舞ぬ春の海　、
松の老枝出して　おくもり
扨は吹り引や一ひらちろも也　枕　風女
うしは寒さく　桑よ乃池や夜のむ　鄭玉
肩の終うさきなうりや木の芽時　首寿
春の下おもし　ふく　かしりり　亀山
鋒まもう　噁　まもちらくてつきあけ　楽泉
てらの夙の匂ぬ日のちくそさりり　信呂　仙タイ
梅宿　横ひ　多ゝ　ひ　そ
寝上に来て　風の　葉もさくりりり　英扇
人寄くまうらや　家の　霊枝　う扇
うら春掘ぬありるひりりの春の中　以学
汐も来て花ふや春の山の裾　ゝ秋
うちゆれさ行ある亀の池　大笑
てふくらよううらるぬ　杌　之素

ゆきつきぬ菜の花さきて縄しく桜　丈柴
まつる春てうれしふくるや末の山　萬里
夕くれや枕の菱出す咲ひらく　三ヲイ　文錦
こえれ千里こえゆる雛の居る　匡月
むの作さく咲て居るし末の縁ぬ　いさゝ
出ておりて来て又出るし　武ミ木　古斎
子ら小筆にぬれもなくえる手わう
生えぬる露えくりひとちま桃　橋、
汲出しさ綿にさくぬ末の西　里宝
つまくや蛙の声の花来くる　武マキヌ　里うく

襄み
巾着も挟でおくりや水ぬるむ　秀鬼
ゆくくる路ある居や菱のむ　枕松
佐保姫の絹引草ろ秋くさき　風玉
またのりはやひろくして草くる　宋山
ええる傍の出来てしくてし析や　、
生のひてとしもぬれつむのる　摺ヤカタ　不染
大さよ雛の桃にのせくまの　丈扇
むの山しとて久くりわり　三ノ于サ八　うさゝき
咲くのこおるや末行江の小舟　斜桔
またるて似合ぬまや木の雫　以秋
斤られ八川こえてあり芦し角　瀬石
、
てふしや横ま引けに出るもつく　借三　三玉
、
まれやえぬれ家にも人のある　判者　孤月

高点五客
東西風玉、丈扇、五五六十七十ウ柳菱、一万寿、古斎

太白堂評連月句合抜萃　乙丑四月分

詩ところの冷しき茂りかな　猶天
学より先く来もとし水　江水江　楊むし
小松や花菜の冷の稀く来　仙ダイ　一成
、
雪山も四月の花さくられ　一徒
庭の石をふめい咲やこぼきりかな
時も日もおくして為りや笠　武玉川　性宝
もけるその傑や桐も立さる哉
るなら八まろくあ傍くれるやまる　、
りんさく大空のうたる不らん花　枕葉
ゑんさくらふく花のあまもとし　枕楚
後添てねる茶のそのよきめ　浪ヒヲ　寿女
すいしさや寒子あまくる夏の後　夫楽
一奴花こぼえて何る陽子か　甲江ハラ　丈夫
凌ぐ丹や西いやしくふりかへんかな　棋年
筆の杉上てゐる大地か　滂山
美くり女勝男脱の中の　風玉
夕涼やくらくをうくる樓木の風か　宋山
路過く中く繁の営鉄　江野
人まに信まうくきて画る条か　文步
子ずはおく芦る　武マキヌ　乐気
画ぬもそうしけて参の南扇の絵　三葉
坊会てしらぬ新く落ふうわりか　キホウス　了く
祢の田や室も新て桂仕巴　柳夢
紅くの守や只月まぬて来　うの玉女
式交こえてしつうう守人子　瞅石
若くてその山桃のるくて彩条鼓か　花百
きうくうらんとこわす楠の目　港郡
持ちおくね子争もの行て来め　、
まいに玉若ありて入くるなすし　浪タカス　充鴻
りちうやもふうく松をふけてるま　うの僚女
大陸くおくさるにする中や　猶牛　綉業
美く小来て入る秋も高んむ　利扇
子叔らやえよし信屋号りと　古氣
ぞくさ珠くけくたえるやけり　、面
惚句てゆくさうきの出る日今か　甲ちヤキ　泰山

海山をんやすみるもよし稲ゝ　言下　斗入
秋玉のにほきんも稲の日ゝ　、
うらよの露をこゝきや萩すゝき　、
蘇英　ぶうらし稲うを　全言
うき手の子秋ハくれ由く稲の宿　甲ヒハラ　东一
咲とめる穴くぬひ込相の通し　桜月
木さ余る万みなみ秋の切　楼年
風燈の吹木や秋れて辰も乙　呉老
和燈のこゝれみの花咲の羽　枕條
立ぬ先さるゝ稲の影は　枕松
汐先さ而ふ稲のみなさ連　萬里
盤の葉をもらきや　稲　信呂
貴人のなりをりくしや亦子　班汀
誉ハいひのみすやきや　大笑
拝しれれて衣ろてつく　仙タイ　柳姜
よくえれハよく秋来て辰の　斜楼
藤の新くくもうら万薬肩の字　以杖
きを高をく仕合ふて深し体日士　、
乳体うるし燥の秋の秋来りぬ　又梅
杉の菊きるを力て出てぬ　武玉川　玉之
きりくハ雲もめまふ葉すし　介不
筆や操て又稲なき高く　丹廿山　宋高
坂燈の中の巨燈も万にうり　良雨
京の色ヘて芳でおれぬ稲ぶ　逢月
表色くなのこれしく葉ぶ　可女
ちるもちやあんりしの秋む　宋勝
打くもの主ちくしらり子の秋　浅タカス　古意
烟の国の係のこれて仁月ぶ　、
笠よりも笠雑の早きゆ葉ぶ　、
冷の来の亦の山路逢ふ騰
稲恵てりよくふきくうらう子　律きく　三玉
けぬ物ひらつちく天の子秋　評きく　班月
言点五十六
未点五十五点合百四十六口　甲ヒハラ　枝斗　、　丸中ワタ　柳姜　五十六点古意　五十五点　武玉川　性宏

与白堂併連月句合抜萃　乙丑青分
隠なさき海えてうきうりなき涼し　楽泉
舟を出てひらくり日傘やひらりて　、
水きふうきさうも汗の出うる日ぶ　九龍更　都交
夜の月草を並ちれで入てゆり　甲寺下　斗入
わらくさんぬりうまも起なれる　、
松笠をひろふ　並来や　杜宇　花山
あさうえよ京も主けくこれ手竹　塘高
子規きくや　夜羽織　橋国
風情ハ柳さまちん　夜　羽織
是とゆふ是ハえらで夜さしき　武ナカワタ　彩筍女
歌くの雲新らし　き　旧月ぶ　、
池てある舟う切るや　杜　宇　枕松
楼を通り出けしう夜の月　、
なきさうもなしてうり　杜宇　浅今ナ　秀明
捨恵てたるる山の　扇風ぶ　頂山
旅の扇枝くうつめ　姫生　古笠
香くつ出て京くるのありぶ　丹サヽ山　枕湖
浦遊の旅も華さん京くぶ　甲ヒハラ　楼年
子かを持て粧婦くあるる　鳥よ　、
宗偏む下とめう　終の　己ろき　、伏宝　英ぶ

来る人来る人あり　実条、（エハラ）　花実
初慮斗くろのくう　居をうくて来　竹二
ほうも又暑さの中のあつさ哉　玉のや
月のそハ丘も行くさ　すゝき哉、　家玉
よいを元く白く切や　初茄子　文女
うゝ人を合点て堀の底のつゝし　玉粉
立向ハ切むのさすき　牡丹哉　孤汀
行くる子吹や　二アろ行とある一里（仙タイ）　文練
月も空たらく　影や行くし　てすす（三ヲイ）　風玉
丁寧く　いく年も　めつくや　欅　山渓
うくひくや　只今居くし　見くぬ皺　柳花女
拾居て　金ほしぬ　柏を　くふて居ぬ　枕朋
孫先を　ふくろて　おくらく　暑さ哉　涛亭
まいゐと　ひらねして　みる　大工哉　梅舎
まくえくく　宗千代の　紙帳哉　良西
野ろ井の　ゑを汲きて　更衣　
味よりも　味なき　句ひの　ちやきさ哉（武ヨコハマ）　崔鋒
うるの子の　ちくりくくくんうくら哉　瀬石
まさい石　ろくなくくて　すゝくり哉　令弓
汲て初ん　若く堀居る　立帰哉（陸タカス）　宋瞻
若も立ちぬよ　ろさんの　笑ふとり　丈美
花妓の　羽立て　しやくハいくぬのう　呉楚

竹の子の　伸る事も　なく　伸まろく（武父ロ午）　行くる　古柱
初めやくて　みるまゝ　涼くて　初く人ハ、　衣羅
えくくさくて　来くて　ささき　おう秋哉　
夜さく一日めくり　きり田ふく　ラムを　冬し、　種帛
穐居くく　秋も　たちさくん　秦の　初蔵　月岱
ゆうくろも　うくも　ふてきく　柝　哉（ニチコ）　暁月
みくぬまくや　先ろ父ハ　添　あぐくら、　杉蔭
も一たり　ろくろハ　嵩しぬん　　粉、　李九
子あしも　うろみく　こうちや　更衣、　南江
杉まきを　隠る　くらむ　あくさく　うら家、

襄英

初穐居て　出て　京や　古債業　の仙女
しくらして　居さく人　外の　居筆　舞て
比たうれるも　うくらしせ　鉄蜂の外　秀介
汗らまし　来くる　偕るくの　世くく　夜（武玉川）　怪宝
くゝ義ちきさ　能居し　外　美く　ろ（陸キア）　春糸
雪ちふくく　くくくて　あくきくう（甲ヒハテ）　山人
米やし　しくらくさ　くろる　もの色　文お
さうまく　来て　秋の　末をさや　きかりし　宵嘉
田分ちを　えくらすく　家や　外　盛くる（仙タイ）　一径
嶮く吉　くさくきくり　ろくくさくす　枕梵女
しやみ凶を　出て　若さく　夜や　裁おろし　枕和

初懐一段 [illegible]

[illegible]

世の人よ 扇もあるつるく 徒を三 [illegible]

、

[illegible]ハ牛 [illegible] 作去 [illegible] 月

[illegible]

[illegible]

五至 [illegible]茶屋評月次混題句合五矣以上 乙丑立月分

天 [illegible] 月の [illegible]ハ [illegible] 東坡 呉越

地 [illegible] [illegible] 文少

人 [illegible] 一面 [illegible] 九二

[illegible]の上、

[illegible] 九契文 [illegible] 東

[illegible] 東

[illegible] 甲子下 斗入

[illegible] 左京 扇 [illegible]

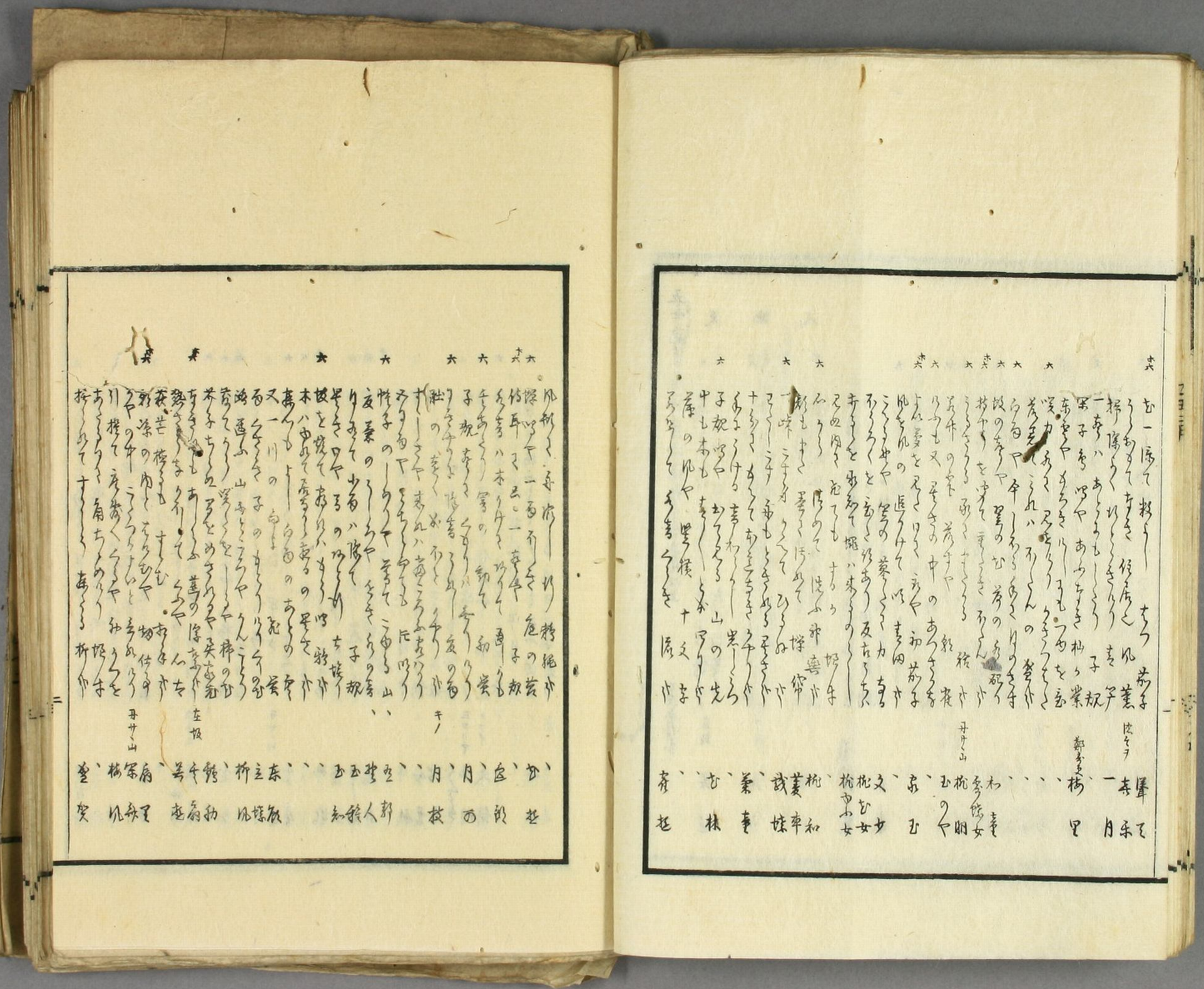
[illegible] 扇 [illegible]

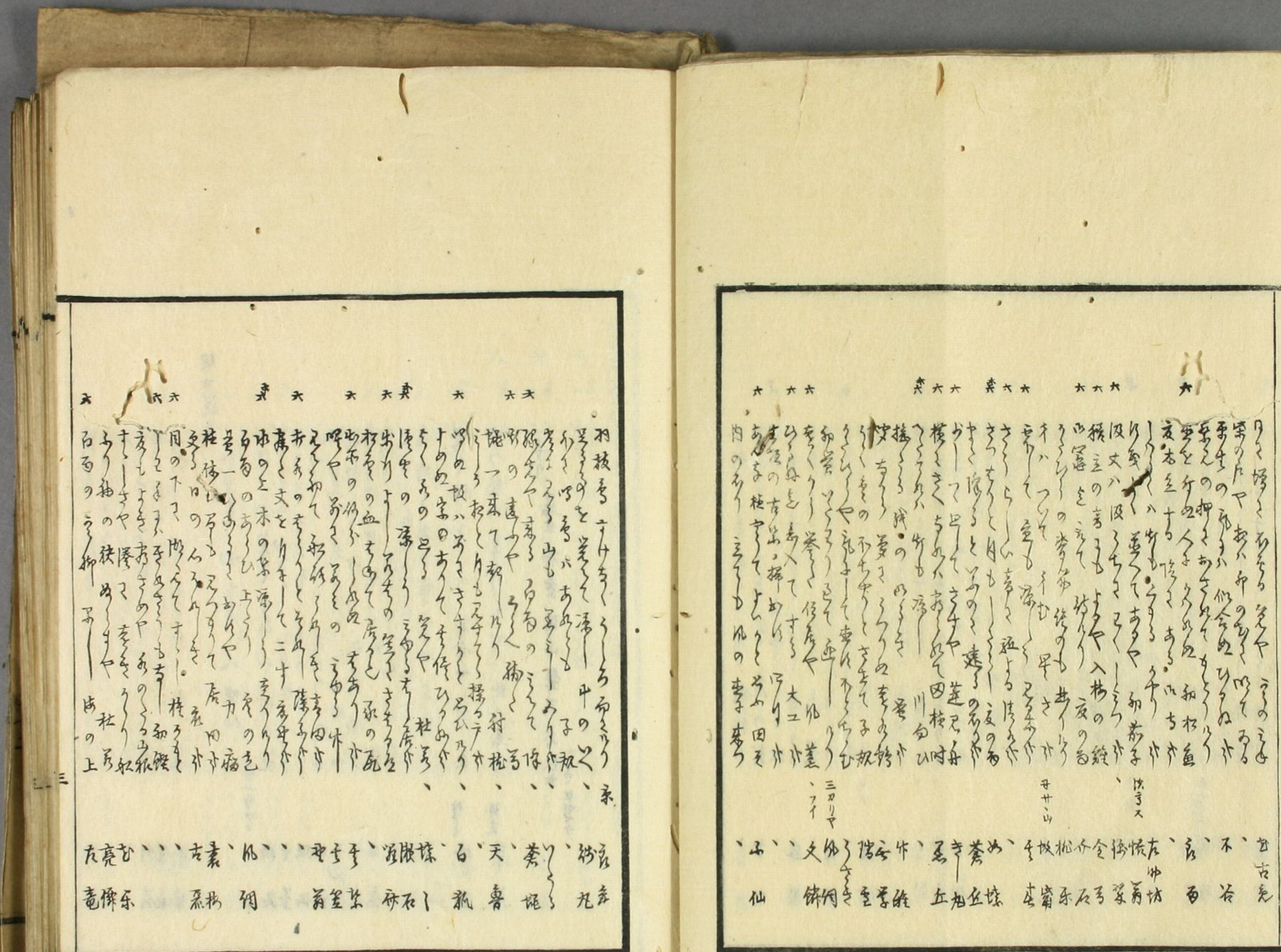
[illegible] 仙女 [illegible] 杯 [illegible]

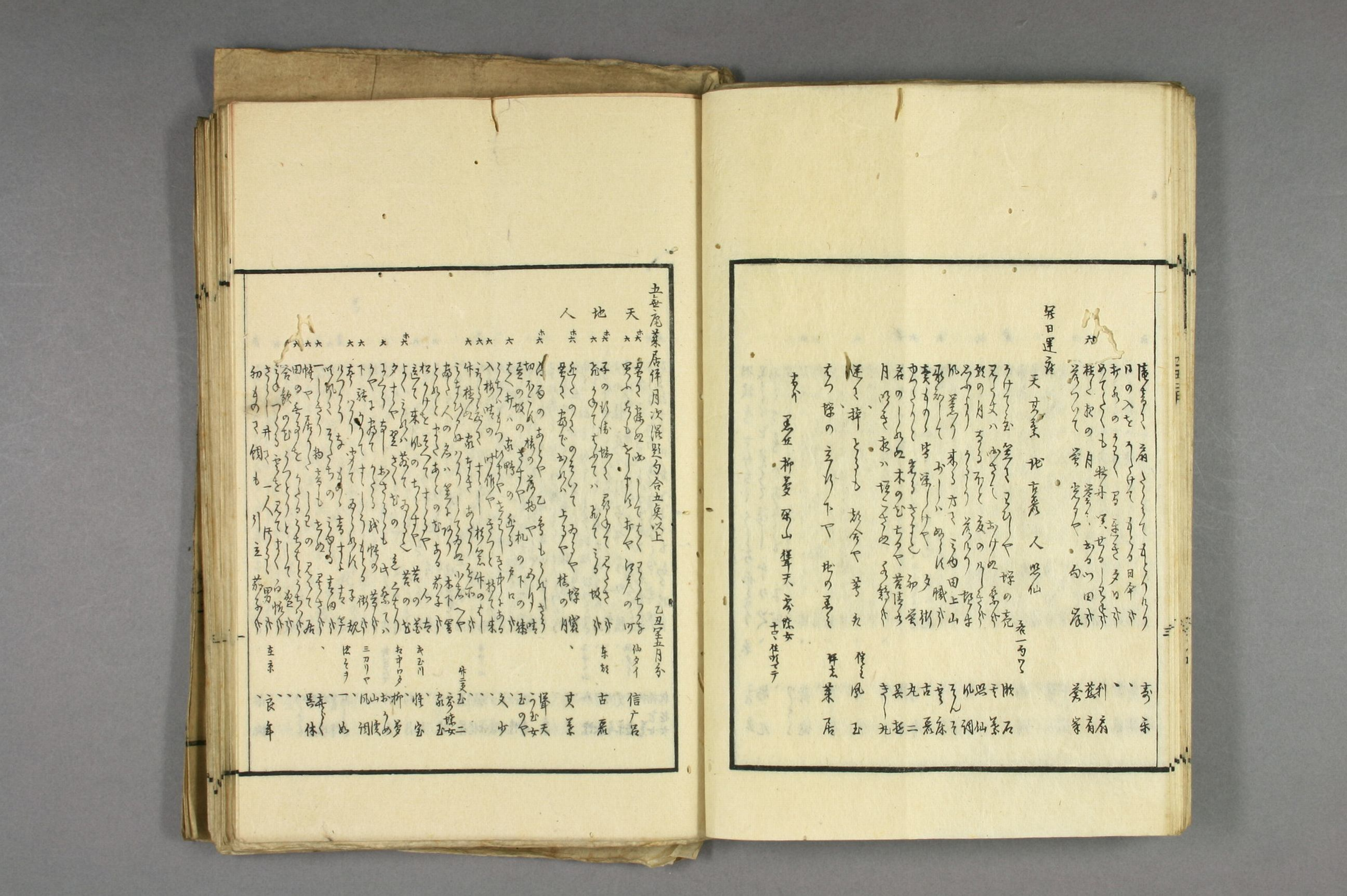
[illegible] 山の [illegible] 悔の [illegible] 武川 [illegible] 宝

[illegible] 枕 [illegible] 鴨 [illegible]

[illegible] 山







五月廿五日　乙丑　五月分

天　信広　仙タイ

地　古嶺　東城

人　丈素　峰天　うむ女　たのや　久少

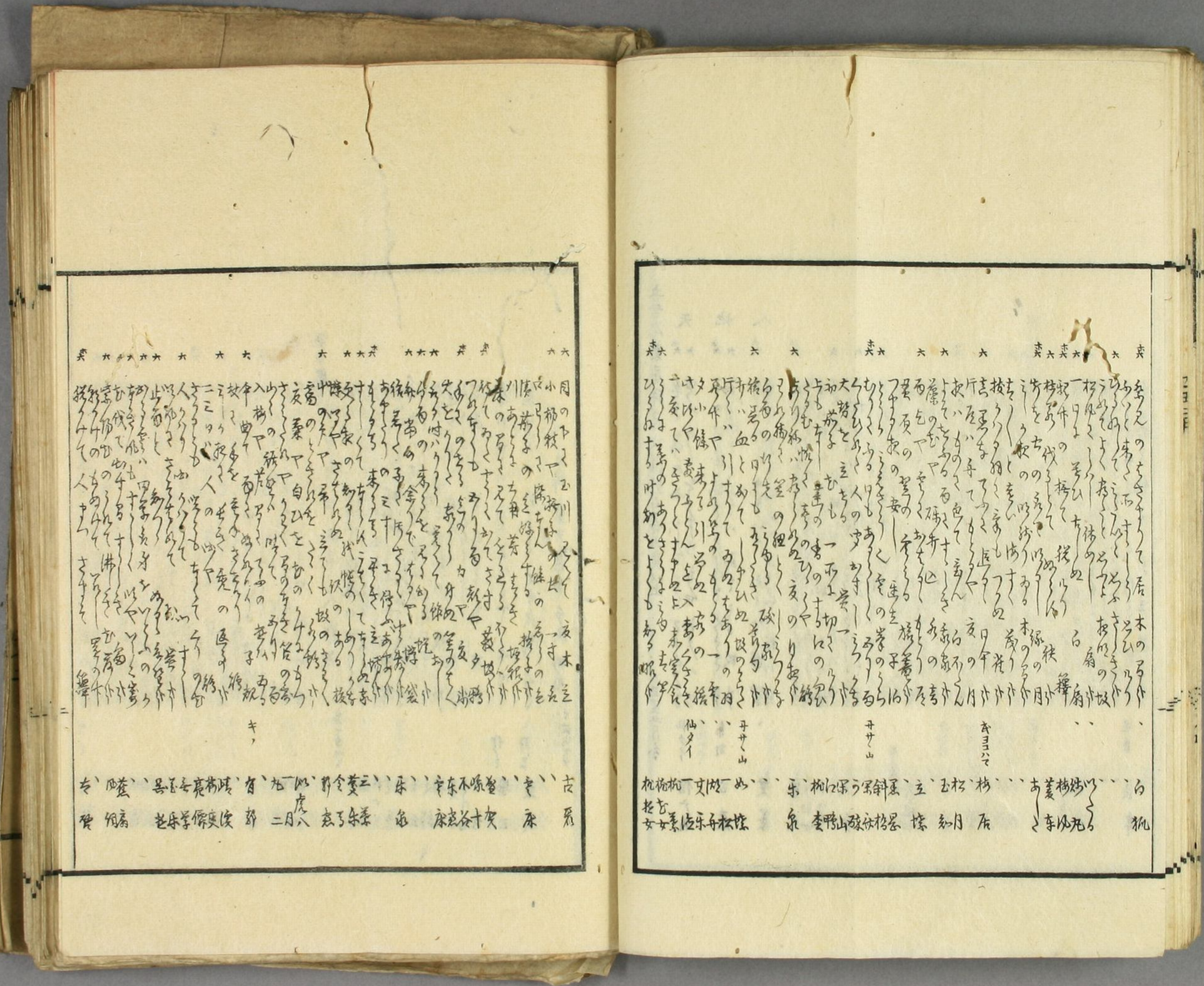
牛三文　二　京　彦女　玉

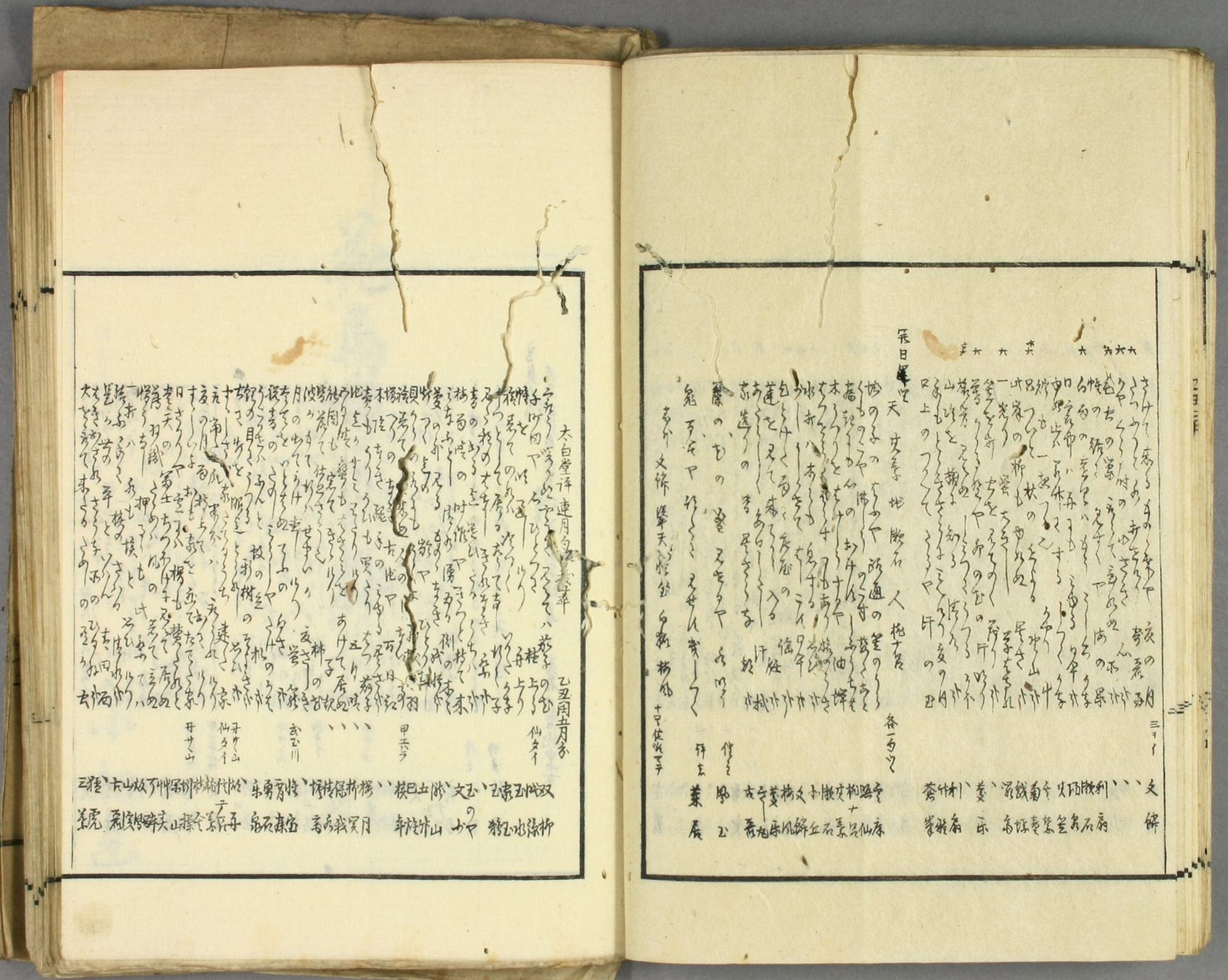
牛五川　性宗　お中ロタ　祈夢

三カリヤ　風山　閑

出そう　一ぬ

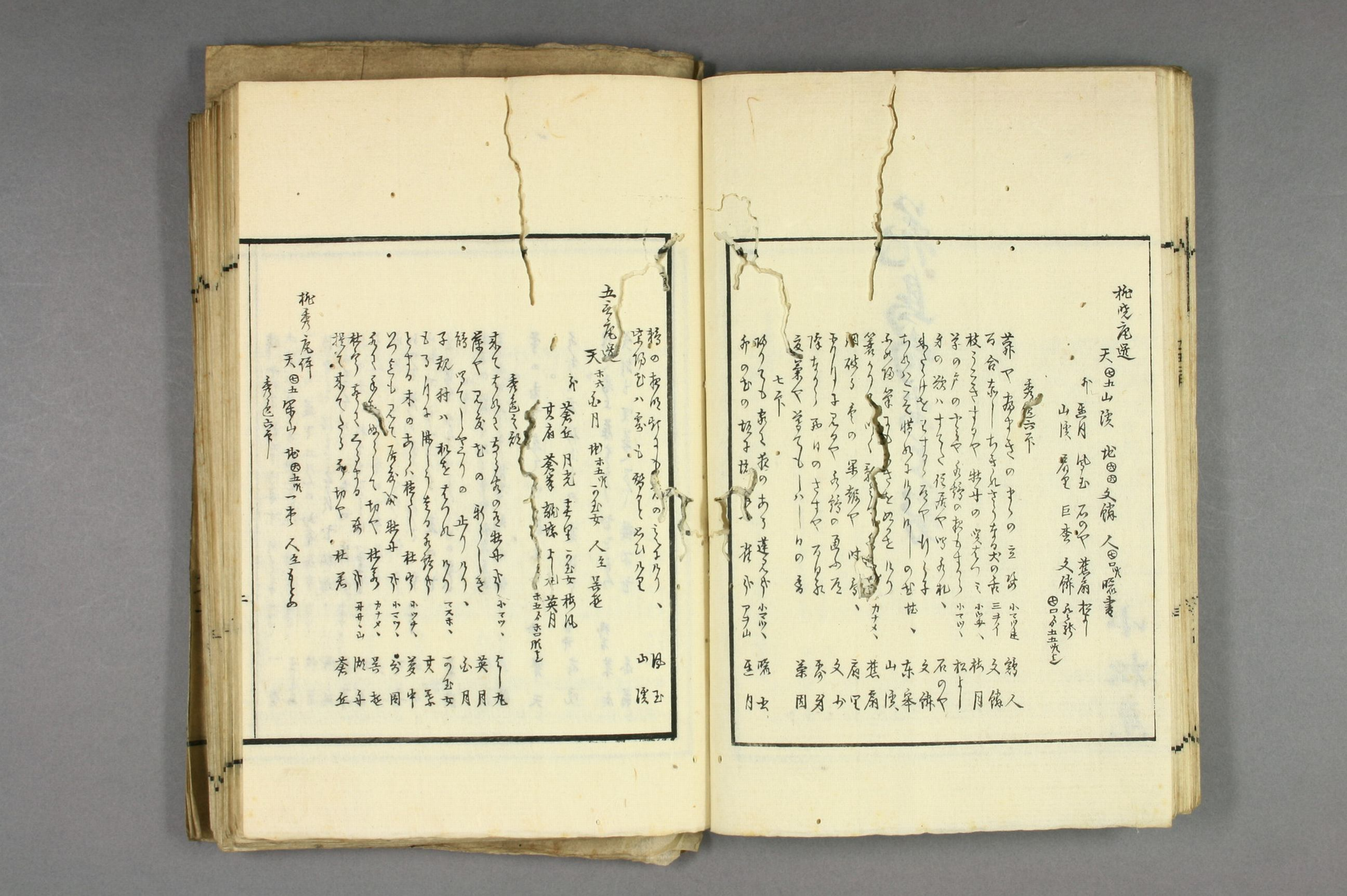
玉素　良年

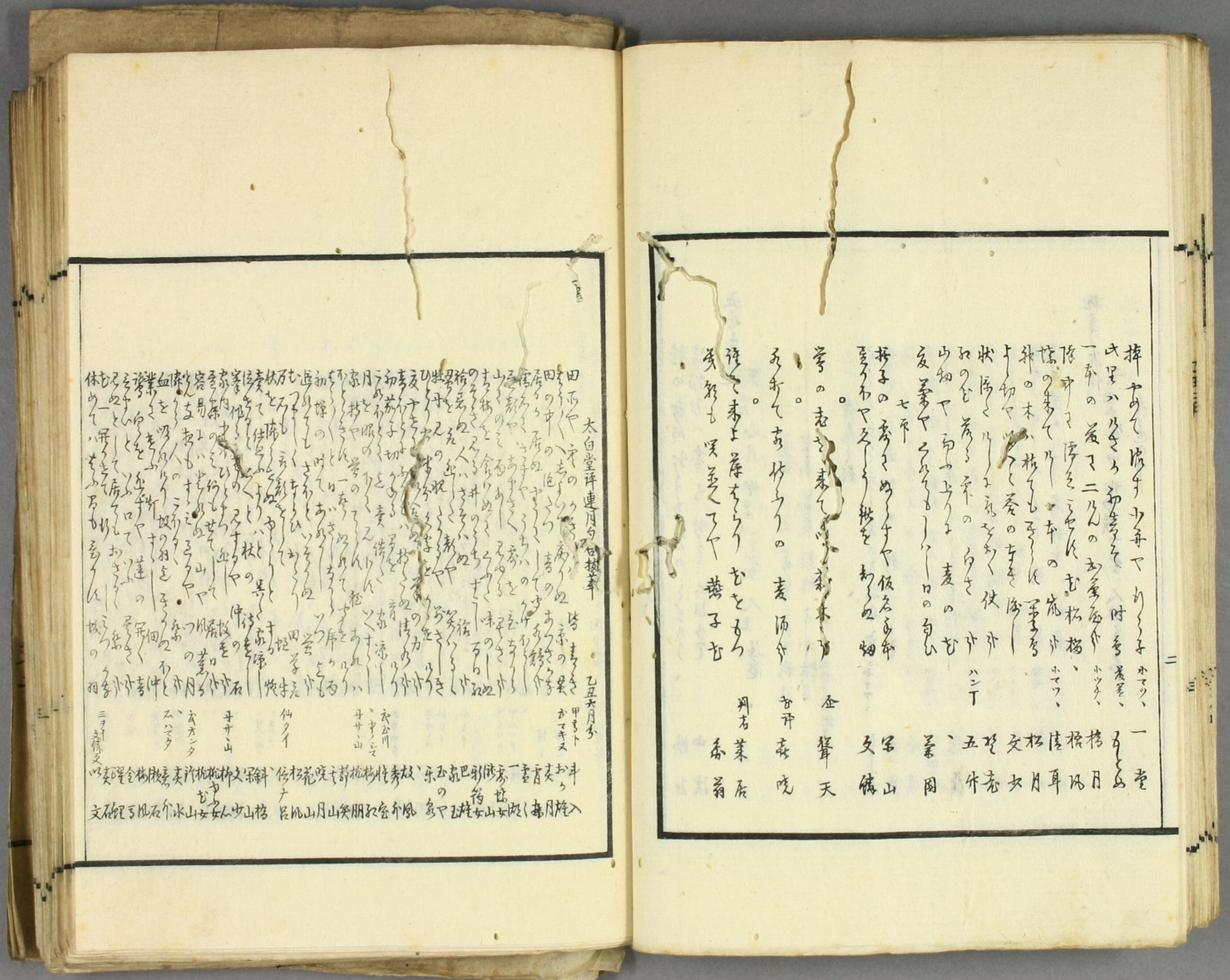




花鳥句巻

小松連



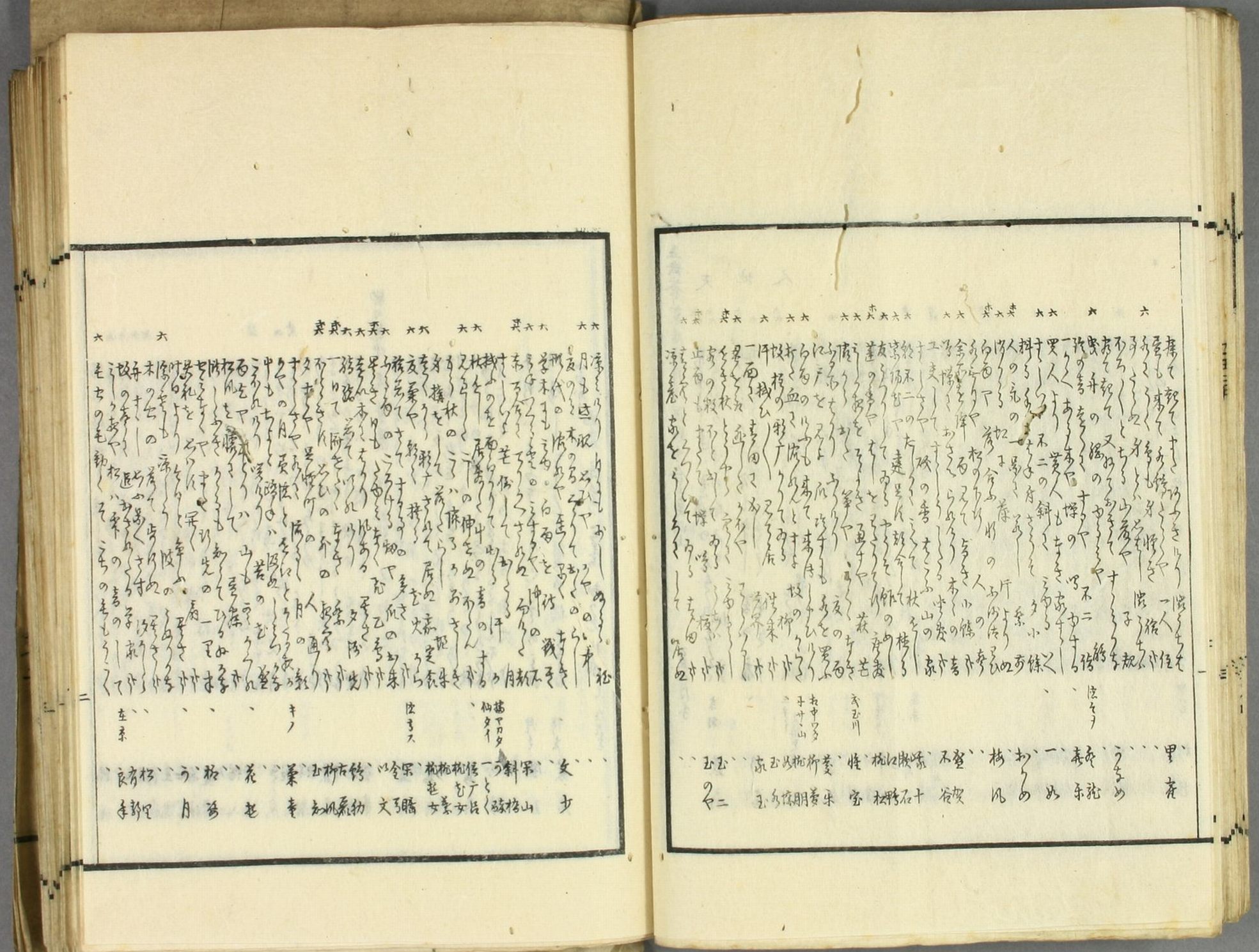


五無莽菜居評月次渾題句合五矣以上　乙丑六月分

天

地

人



五無尾茅居評月次混題句合五点以上　五五七月分

天　一番　竹の葉の形にて根の太き　赤松　竹雅

地　水や山の緑を尾の長き　三万里　北潤

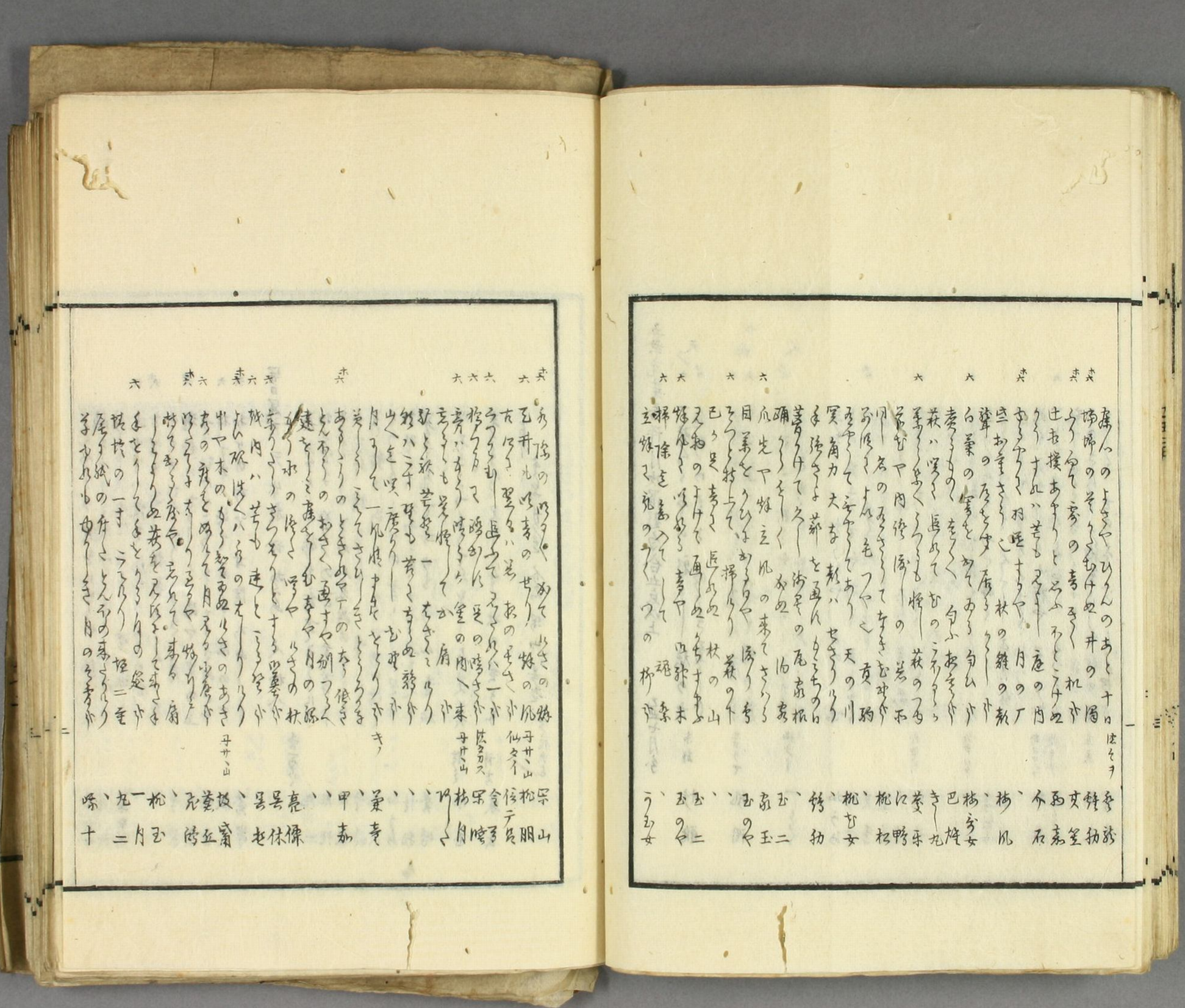
人　蛍来るあるじ所のうるさきもあるや　むかし　夕りき　仙タイ　一とく

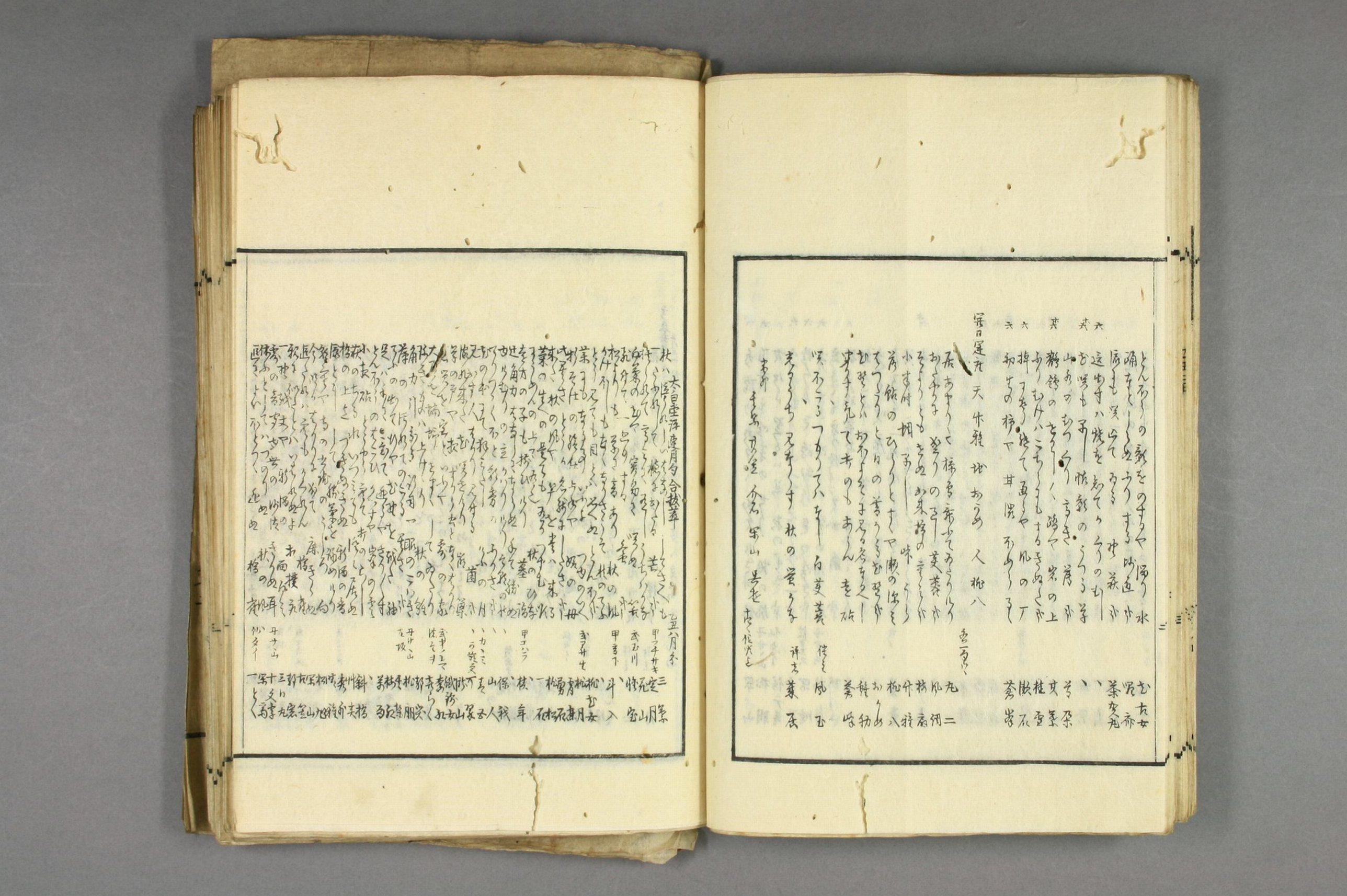
来句　咲残るあるや　おうめ　梅里
句の残す　立ち　味
花て又さうさう　丈業
下もう来さ　柳　蕉扇
梅まるく　山陵
蛍の蓑へきた　性宮
三ヒハ　咲くも　武五川
和杉と来の　穴の　咲く
蓑も　咲きて　果
蛍の手や　時雨　村　おやま多
時て　ふる　柳多
一とく　そこの　来の牛　彦惣女
紅すもあるく　時ちよろ　蓑の　武ヨコハマ　梅　石
日のさんも　絶をうら　杖の　蓑　法ヒヲ　来く
きくく　古の　来　りあり　立京　西　赤
蓑車

手良五家

武武武口古笠　五五武　陸山　妻　切操　武吉蓑乐、巴雄

杭　朋　秋の　秋の　秋の



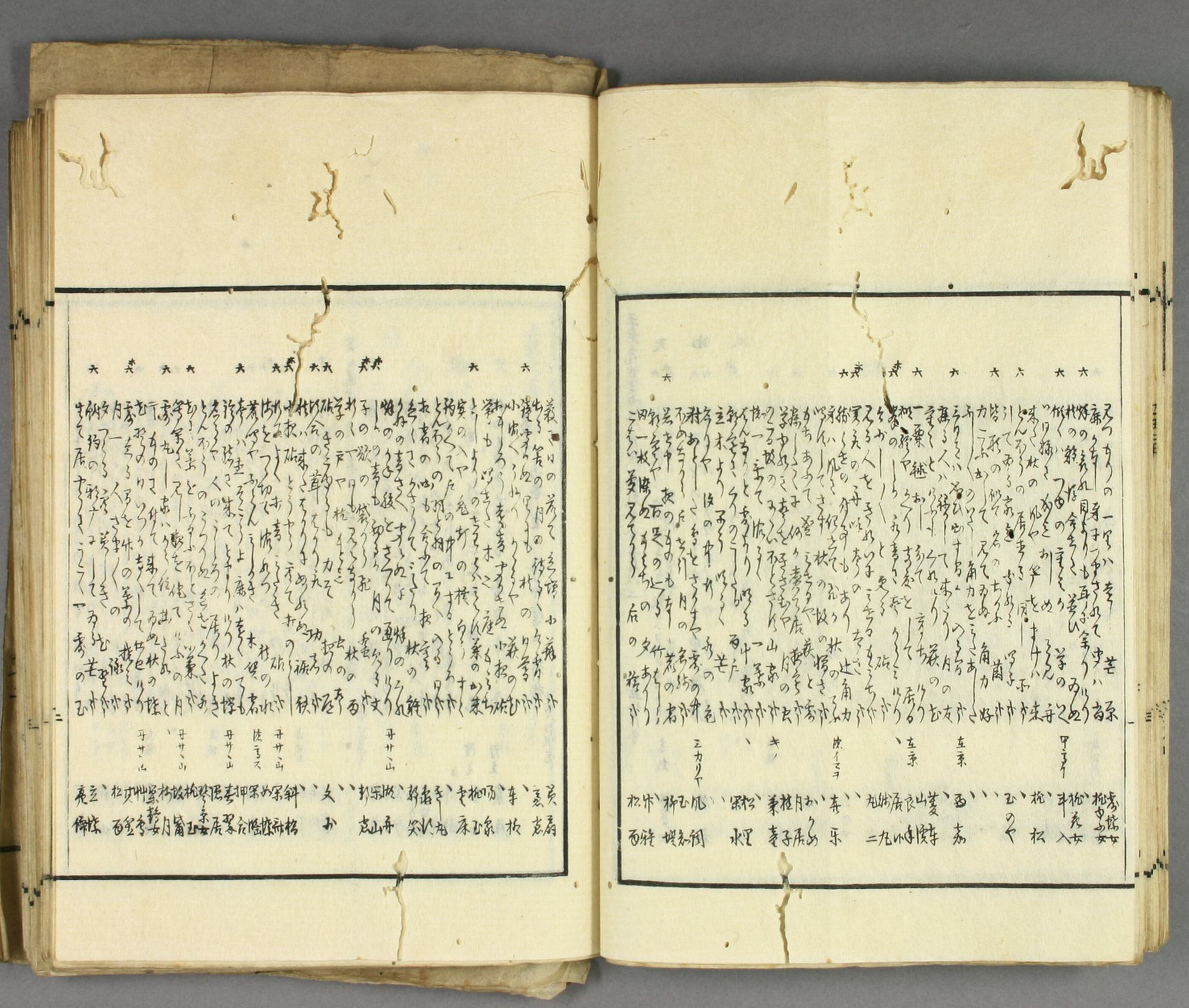


五葉尾茅長伴月次混題句合五番六上　乙丑八月分

天　秋の夜ちぢに鳴くなる虫の音を　東坂　夢々女

地　尾花をのこす野の牛の角　梶和

人　寝ぬる夜の月をあはれと思ひ　丸二



五無尼業庚申月次涙題句合五番上　乙丑九月分

天　左　二木　杉の梢　東坂　吳老

地　右　月一叢　林の色の冠　左坂　都袁

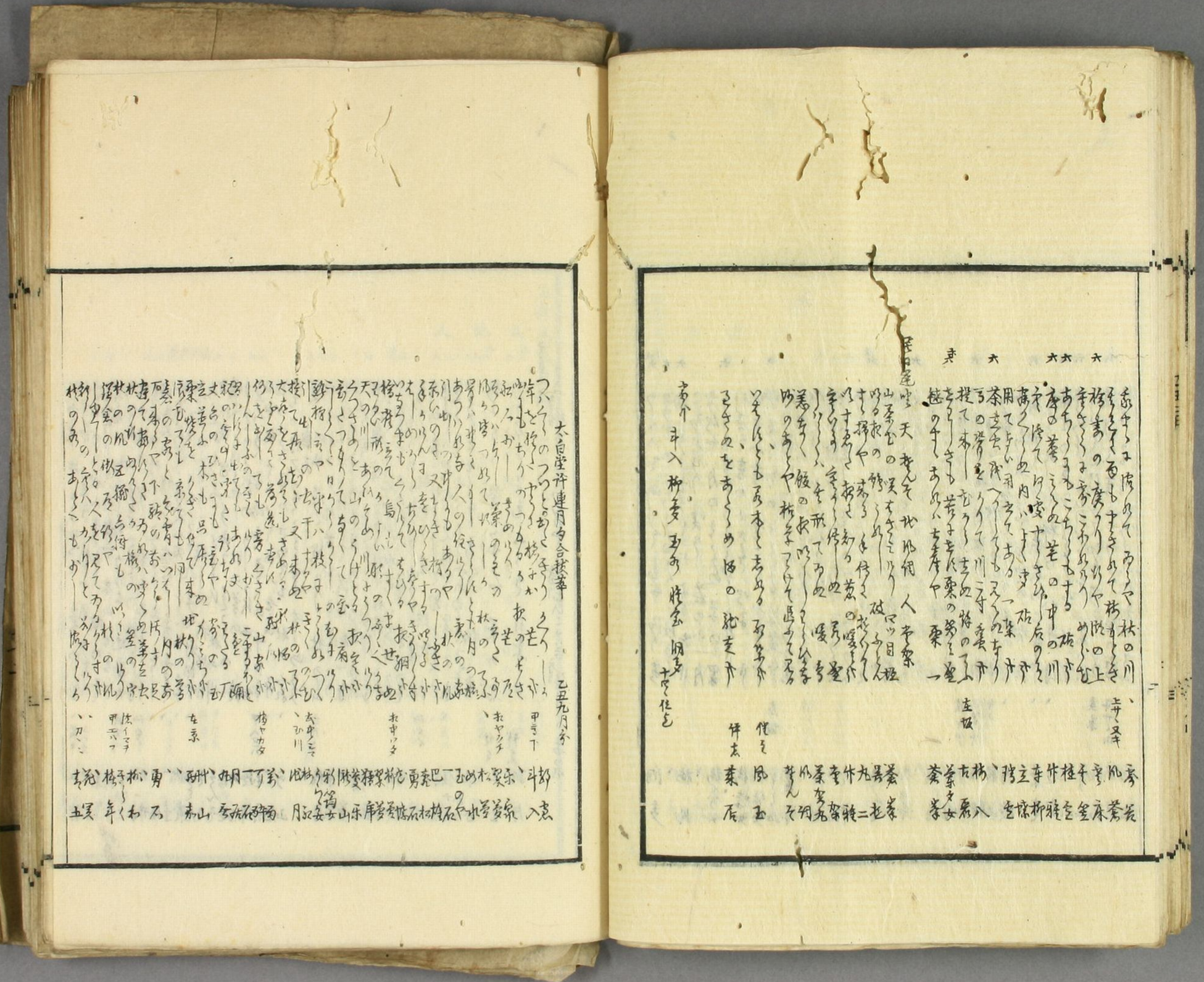
人　左　牧栗の　処つくり不降る雨の月　左系　良年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

踊るより　乙人のつくり踊り
角あるとそ　あるやあの
羽をはやみ　あの
来る鳴め　来て
星のくく　くんて
ちくく　ふ口元のくさ
ちくく　ふ　山も
ちくく　ハ　あ
踊る　あめ　ハ
月の　ハ　ハ
月つて　ハ　ハ
月つて　ハ　ハ
月つて



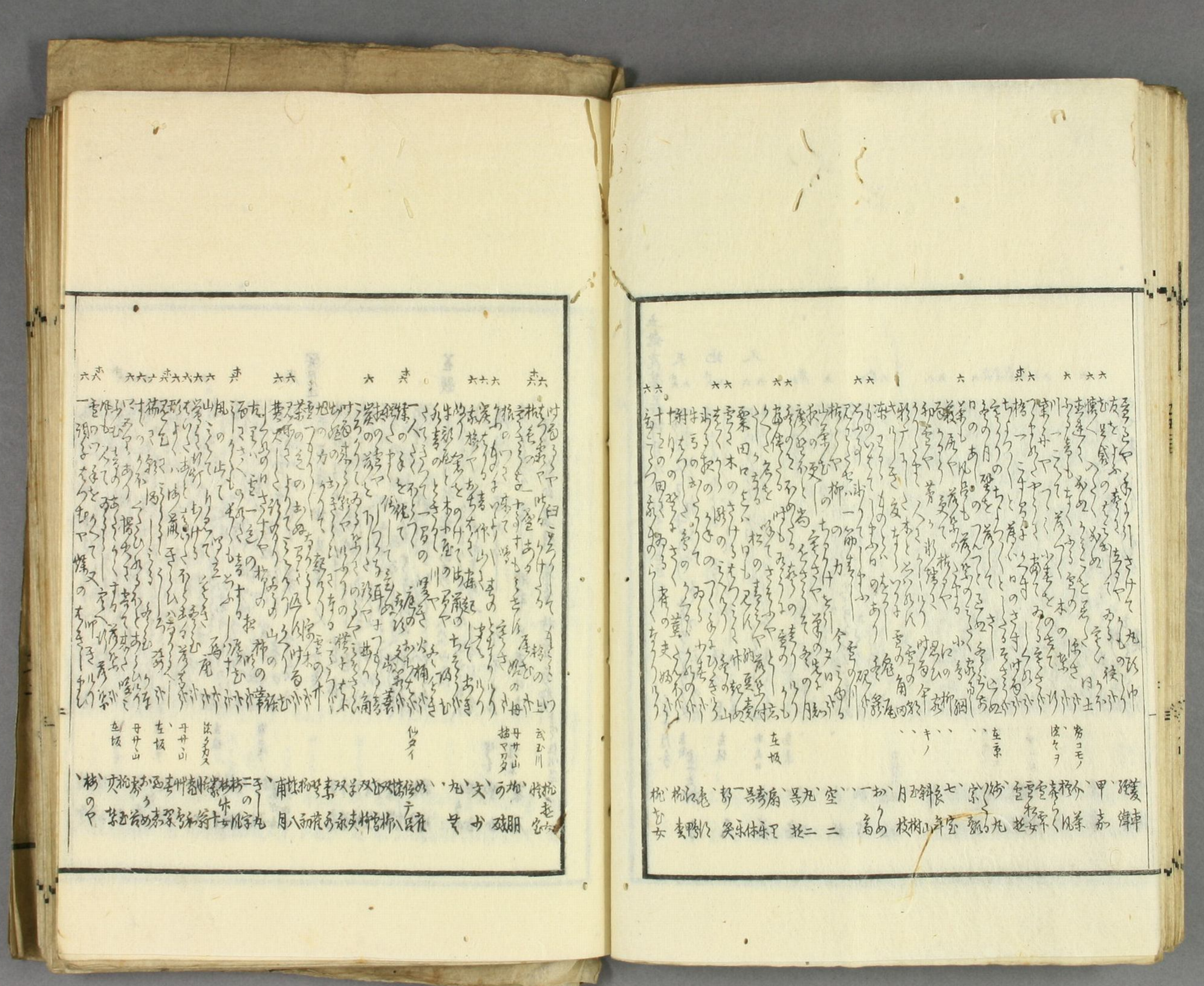
五無尾菓居評月次混題句巻五点以上

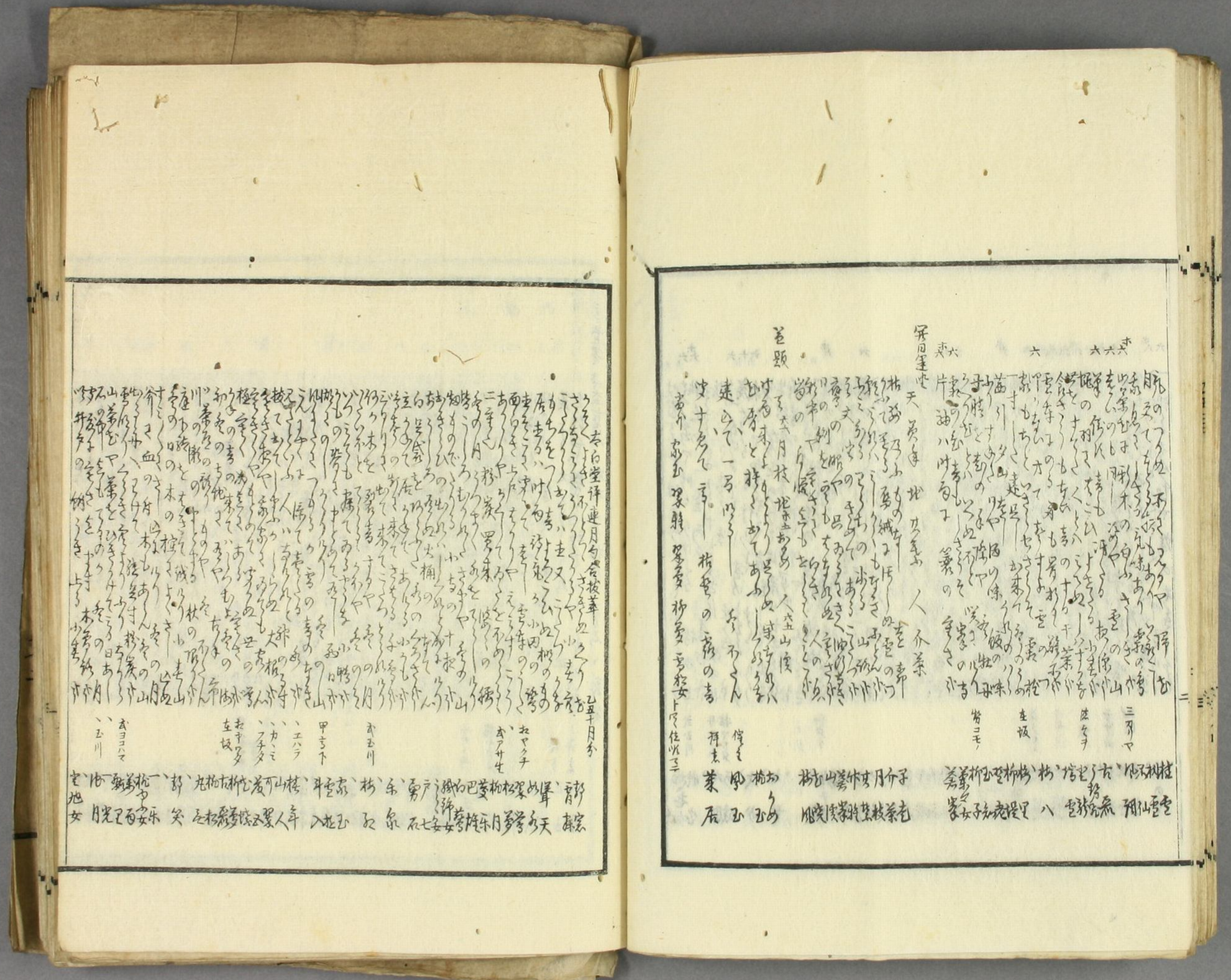
天

人

地

乙五十月分





五無庵茅居評月次俳句合五兵以上　乙丑十月分

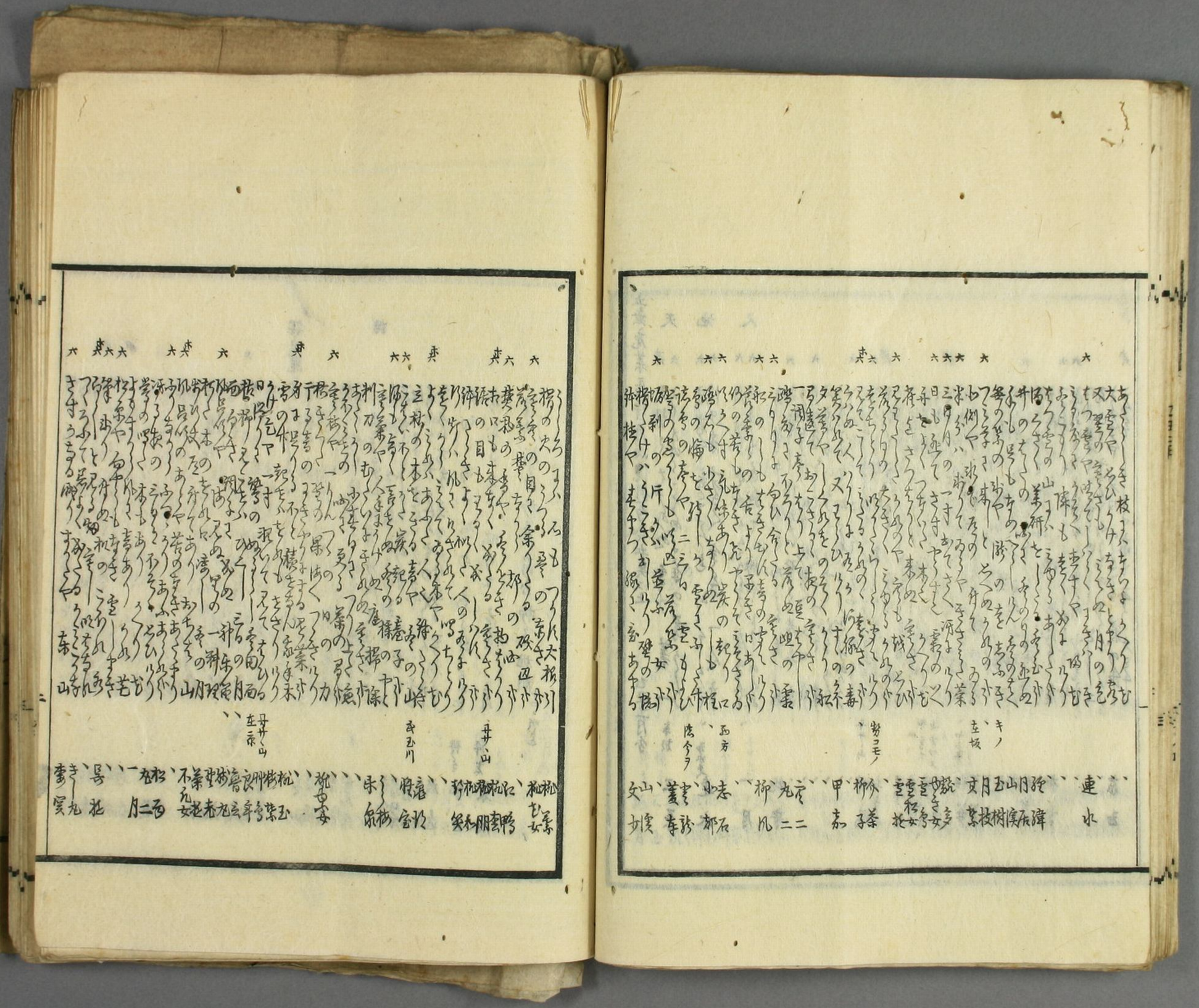
天　大勢こそ　三茅

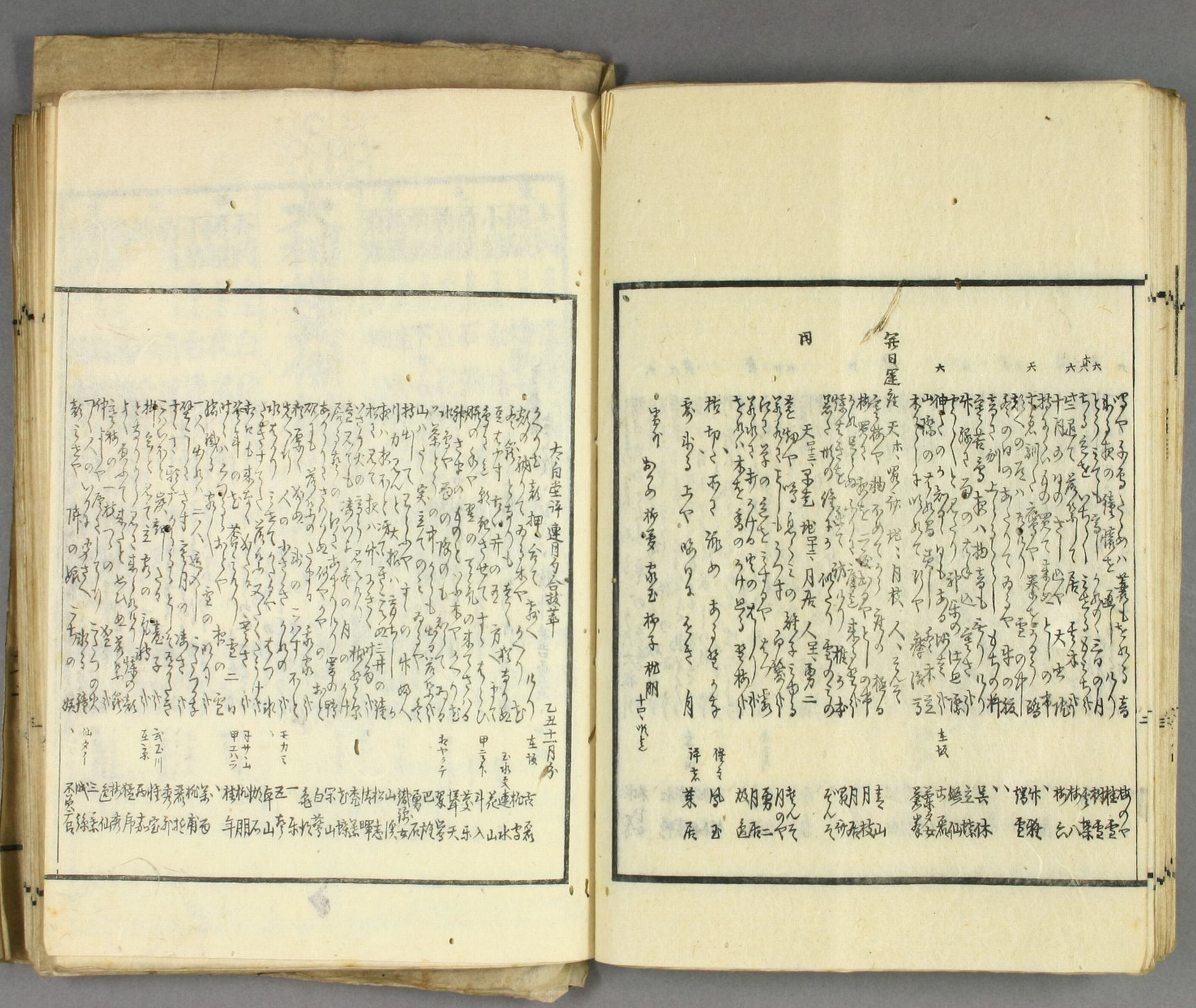
地　定家の書や　連水

人　一人こそ

一月

梶守





大相撲英傑競

行司 東 清五枕流坐瀬石 太音松堂以文 杏舎喜風 村梅風

西 暉花庵盛賀 旭鈴育義十

元 進 月松堂風調

東之方

大関 雪酒屋
小関 梅歌女
前頭 幸信
前頭 石漁
前頭 立花
前頭 下午女舟
前頭 桂堂
前頭 松

同 山溪
同 鳳主
前頭 親敬
同 代九
同 鳳潤
同 梅
同 梅女
同 東花
同 花風
同 荒潤

月 石
枝 紅
漁 玉
雨 葉
山 室
花 一
葉 花
透 葉
花 女
葉 老
不 白
老 根
豹

山 三
鳳 乐
主 旭
親 莞
敬 月
代 扇
鳳 石
梅 三
梅 乐
女 月
東 扇
花 月
風 月
荒 月
潤 月

西之方

大関 白
小関 夜
前頭 古
前頭 清
前頭 以
前頭 風
前頭 梅
前頭 菊

服 縫
結 風
前頭 兼
前頭 風
前頭 調
前頭 文
前頭 風
前頭 童

同 如
同 旭
同 盛
同 賀
同 扇
同 鉄
同 里
同 物
同 古
同 喜
同 錦
同 松
同 我
同 舍
同 賀
同 盛
同 太
同 秀
同 松

東 祝
東 玉
東 紀
東 信
東 鳳
東 紀
東 琴
東 雲
東 桐
東 花
東 里
東 琴
東 雲
東 桐
東 紀
東 信
東 鳳
東 紀
東 芝
東 梅
東 友
東 風
東 人
東 桐
東 葉
東 琴
東 照
東 や
東 紀
東 信
東 鳳
東 紀

月 女
月 扇
月 女
月 芝
月 梅
月 扇
月 女
月 梅
月 扇
月 女
月 梅
月 扇
月 女

春

桃流堂評

夏

五松堂評

秋

清考舎評

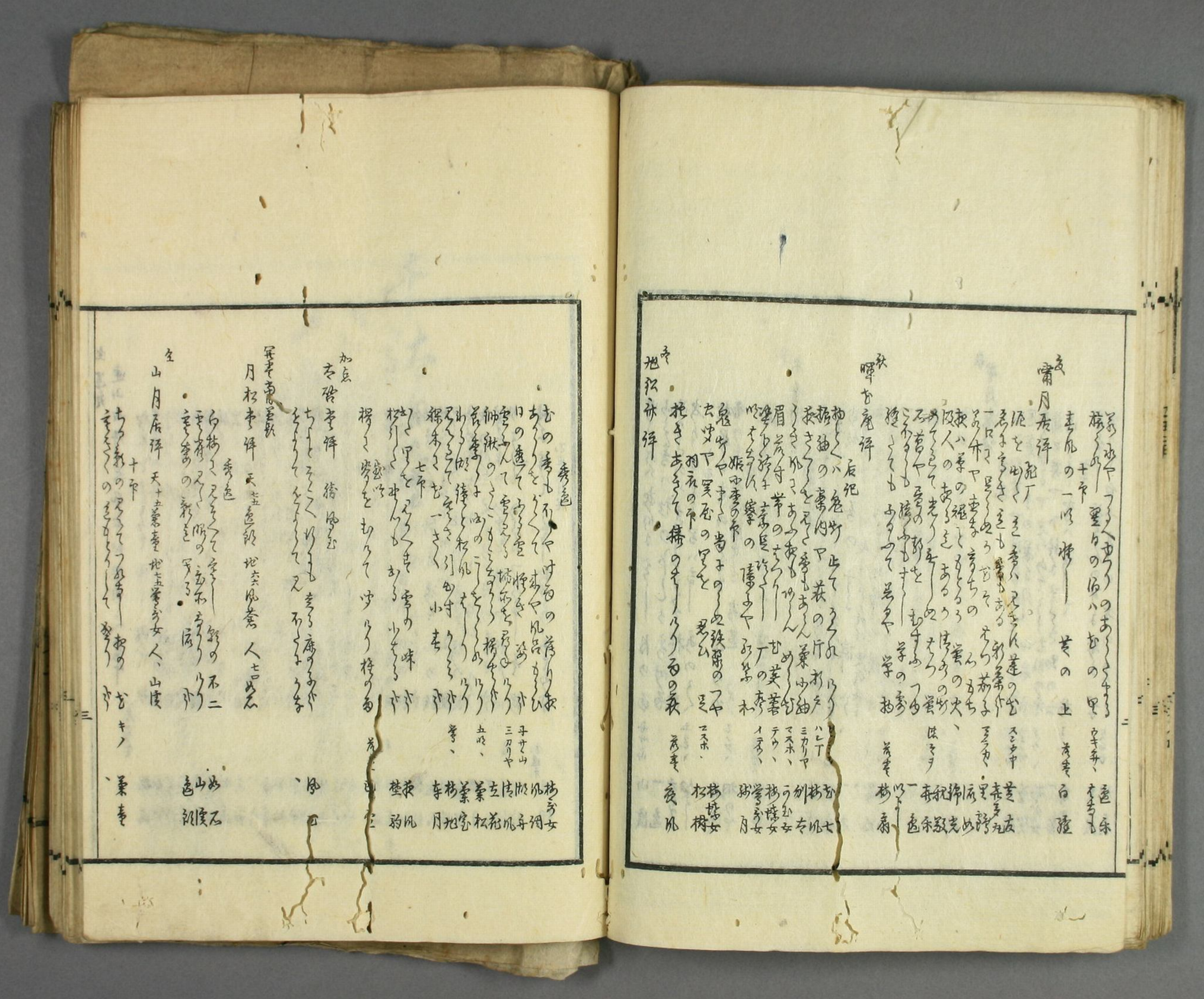
春

月庵評

夏

考秀評

秋



千話ヶ谷
八幡宮奉納詠

俊文

五畿庵宗匠撰

嘉日園宗匠撰

天中七 得志　地中五 長逸　人中三 樂

嘉永　乙酉　如石　雪玉　白雀　松龍庵

雪玉　一乗　堅昇　堅芳　得志

中五四ヨリ中五位明ニテ

[illegible]十年

[illegible]

五畿庵宗匠撰

天中四六 不亭　地、　長逸　人六五 堅芳

嘉永　堅昇　九仁　雪玉　栗山　夢安

得志　得志　自雀　長逸　自雀　芳峰

中四六ヨリ中四五位明ニテ

改号改名披露句合

催主　故風

句負子八百余章

太白堂撰　天（ホ六六）　梶月　地（六十五）　むくく　人（ホ五五）　菱乐

梅の屋鶯撰評　天（六六）　梶字　地（ホ六）　年月　人（ホ六）

太香影梅風評　天（ホ六六）　ゑと勢　地（六六）　一赤　人（ホ六九）　梶吉

尚白堂

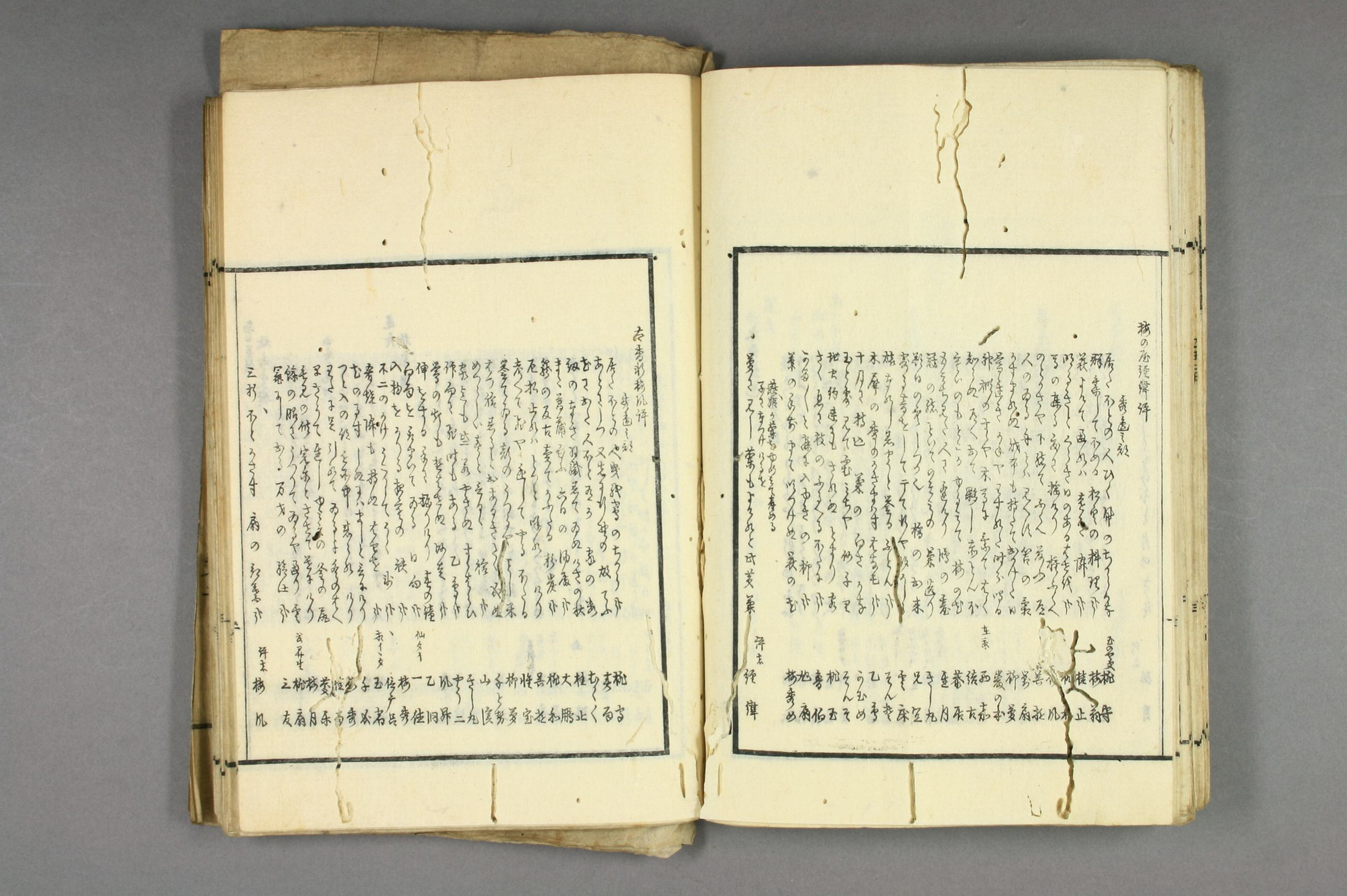
梶水全撰　天（六六）　九二　地（五六）　ケ七　人（ホ）　吳起

子ゑ子九撰　天（六六）　月石　地（ホ五）　梅地　人（六五）　山渡

運句

梶素　撰　天（四四）　三釜　地（六）　山渡　人（ホ）　キ九

月の さを



第四首 桃永全撰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遅春 桃家撰

[illegible]

十三夜 企 故風

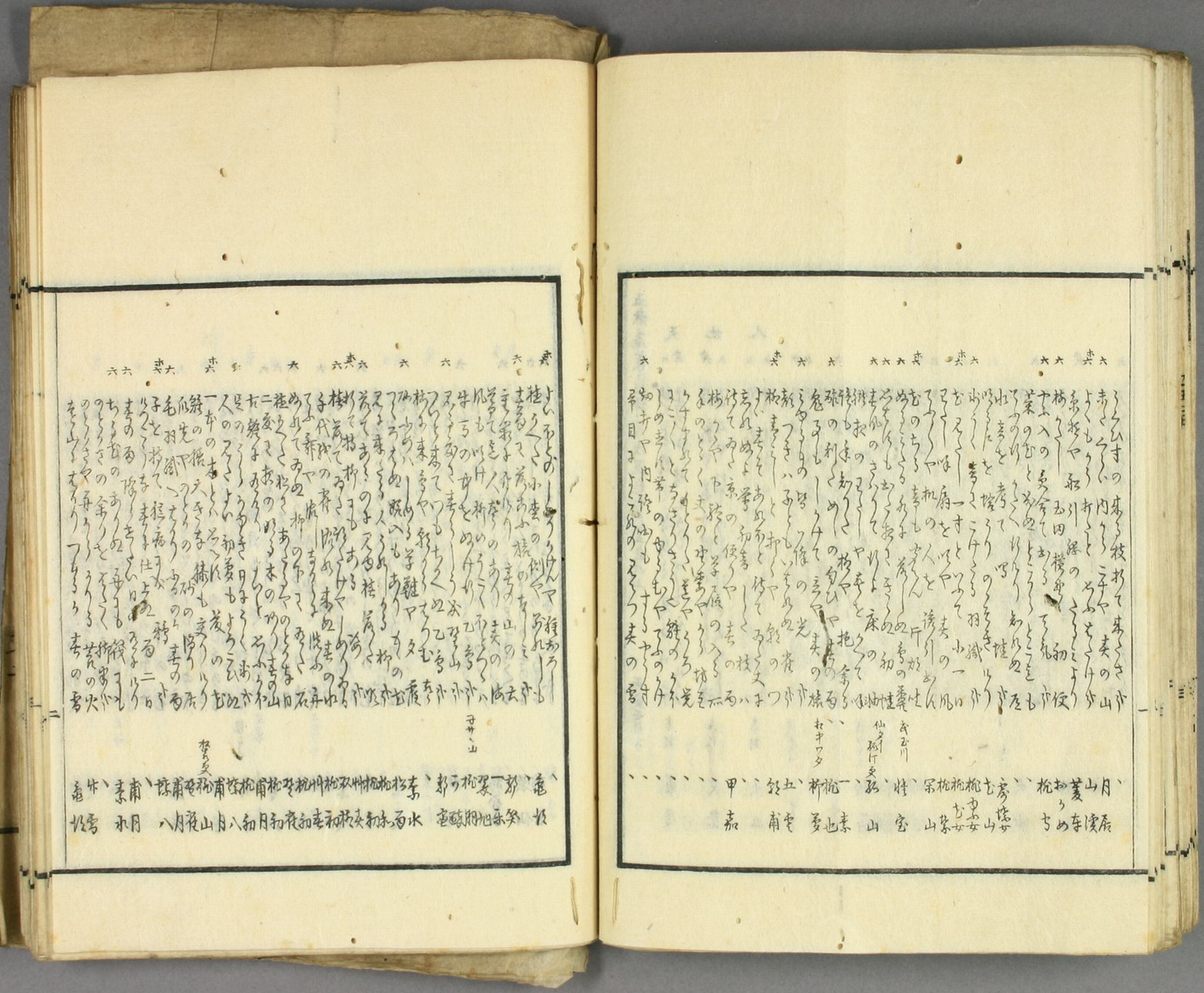
太白堂評連句合撰草 丙寅二月分

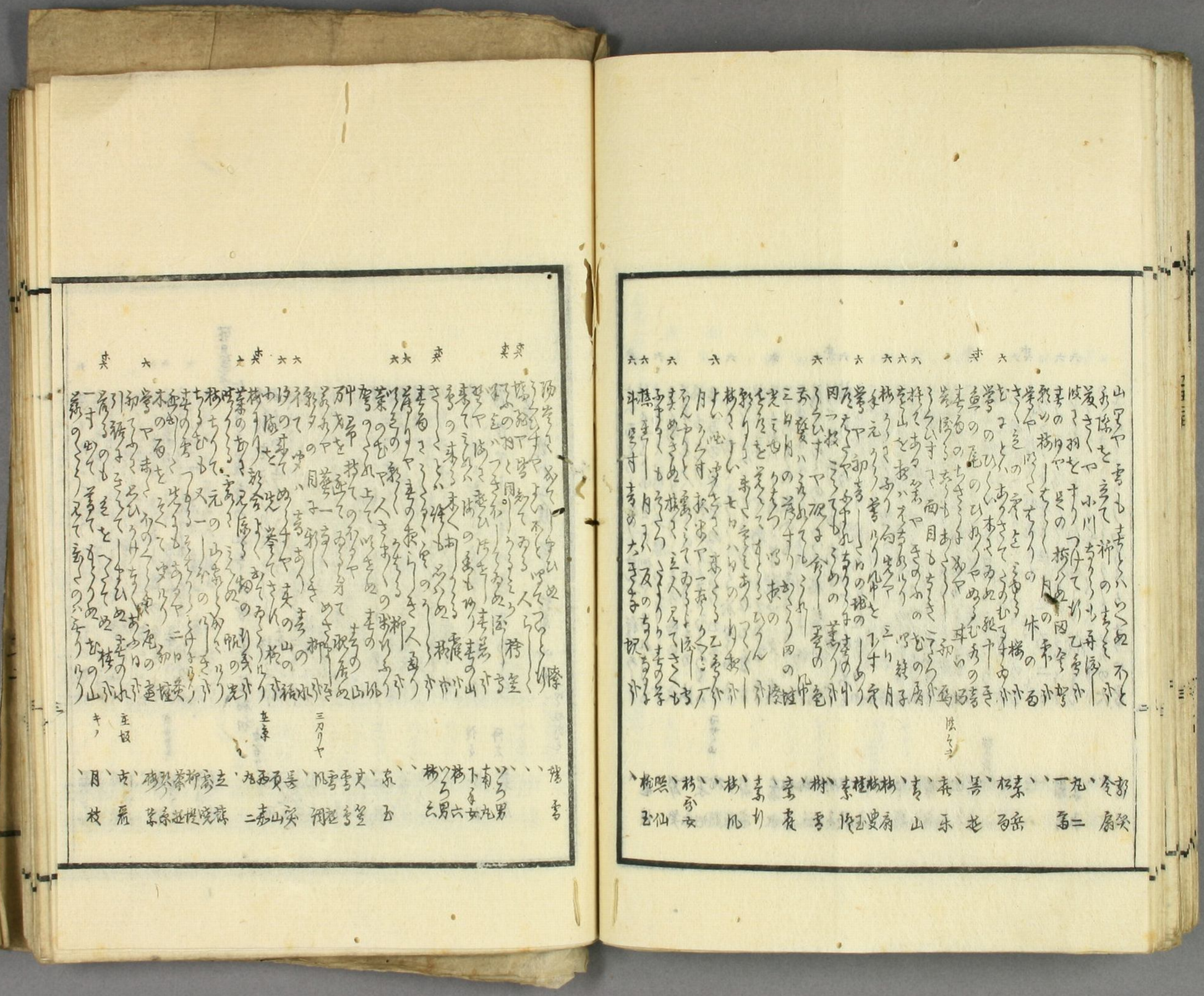
[illegible]

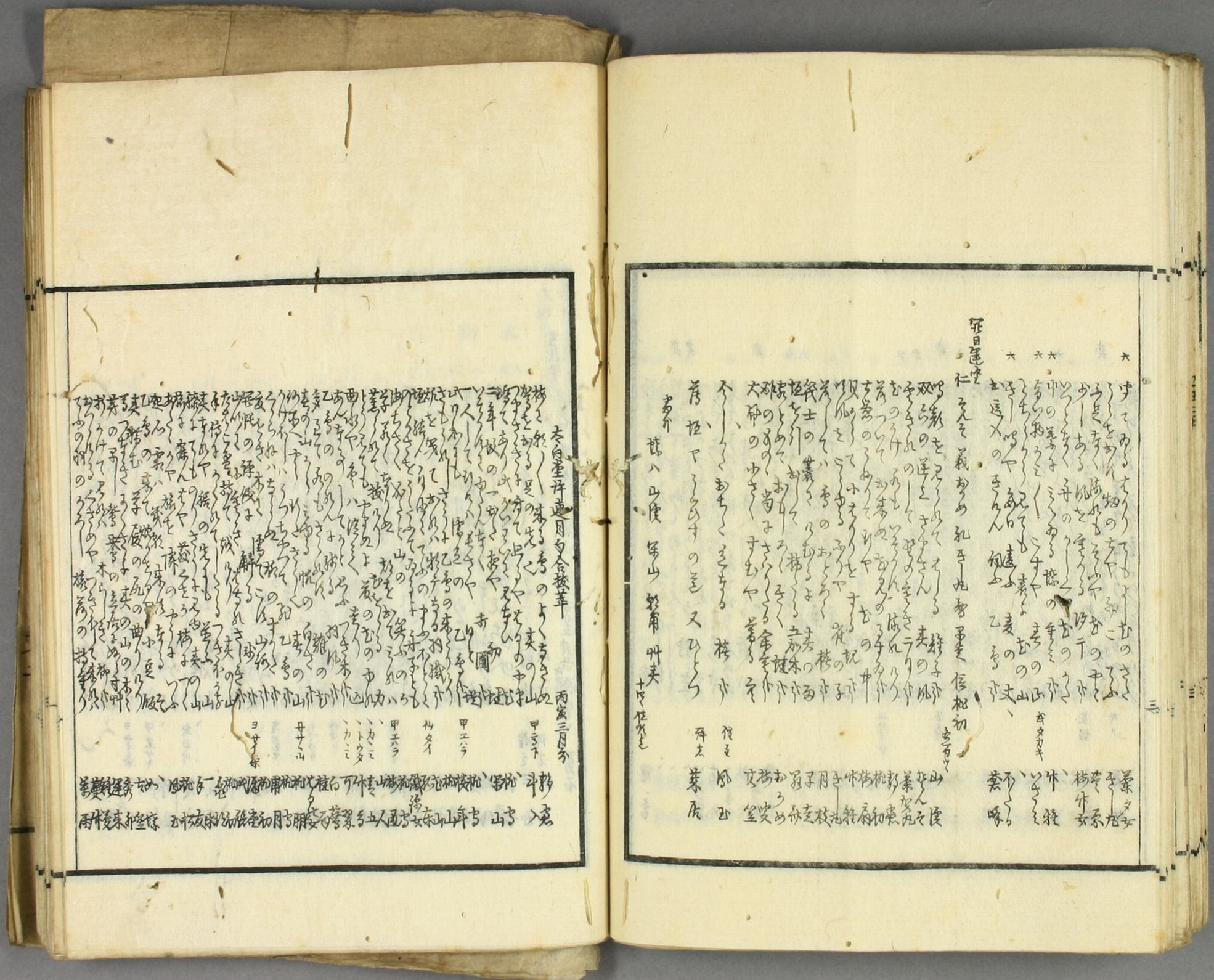
五無庵蒙居評月次混題句合五点以上　丙寅二月分

天　地　人

未就　甫月
左板　文柴
未就　長二
武タカキ　いさこ
仙タイ　成テ　孫
甲エハラ　ハフキ　エハラ
武ヒカワ　甲カミ　信ス　三
武ヒカワ　信ス　三
左中ロス　梅ヤメタ
武ヒカワ
左板　昆古　昆ヒ　昆ヒ
甲エハラ　ハフキ　エハラ
武ヒカワ　甲カミ　信ス　三
左中ロス　梅ヤメタ
武ヒカワ
左板　昆古　昆ヒ　昆ヒ







五無庵業居評月次混題句合五点以上　　丙寅三月分

天　　東坡　　枕守

底物のとあり　　紅葉の山

地　　吳笑

次くとむの新鶯　月枕

人　　甫月

枕古

枕乙

枕甲

枕丙

枕丁

枕戊

枕己

枕庚

枕辛

枕壬

枕癸

枕子

枕丑

枕寅

枕卯

枕辰

枕巳

枕午

枕未

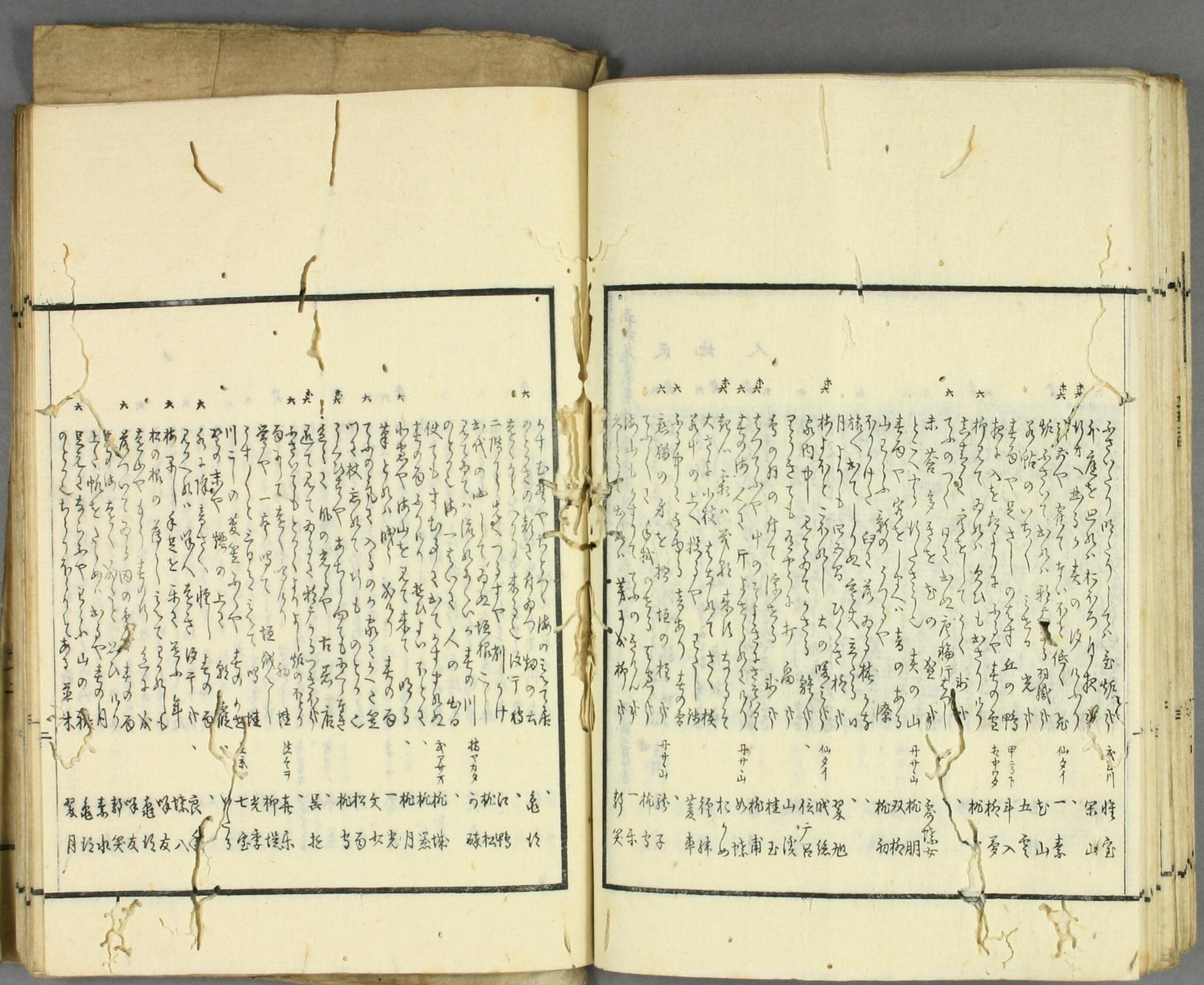
枕申

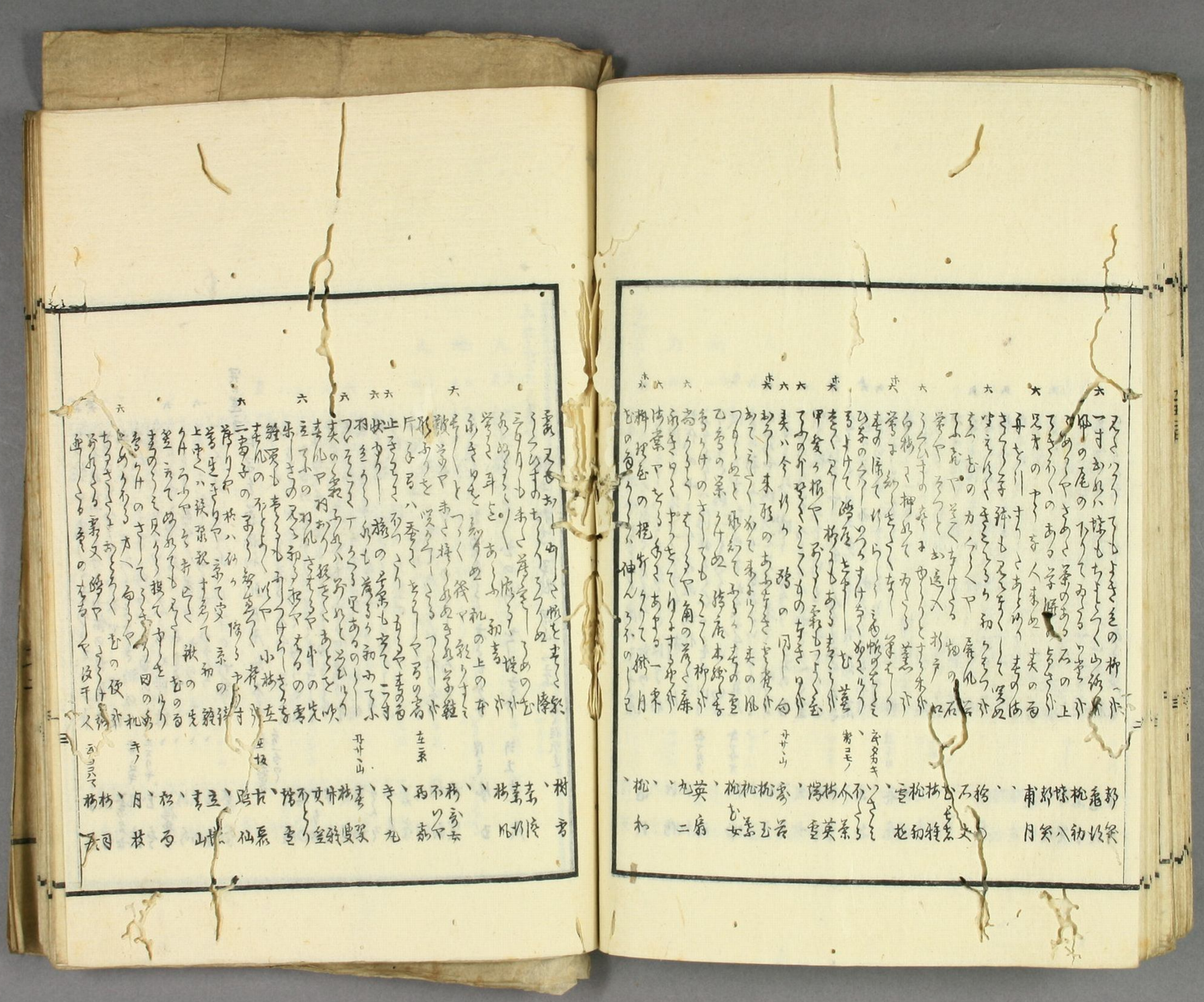
枕酉

枕戌

枕亥

枕天





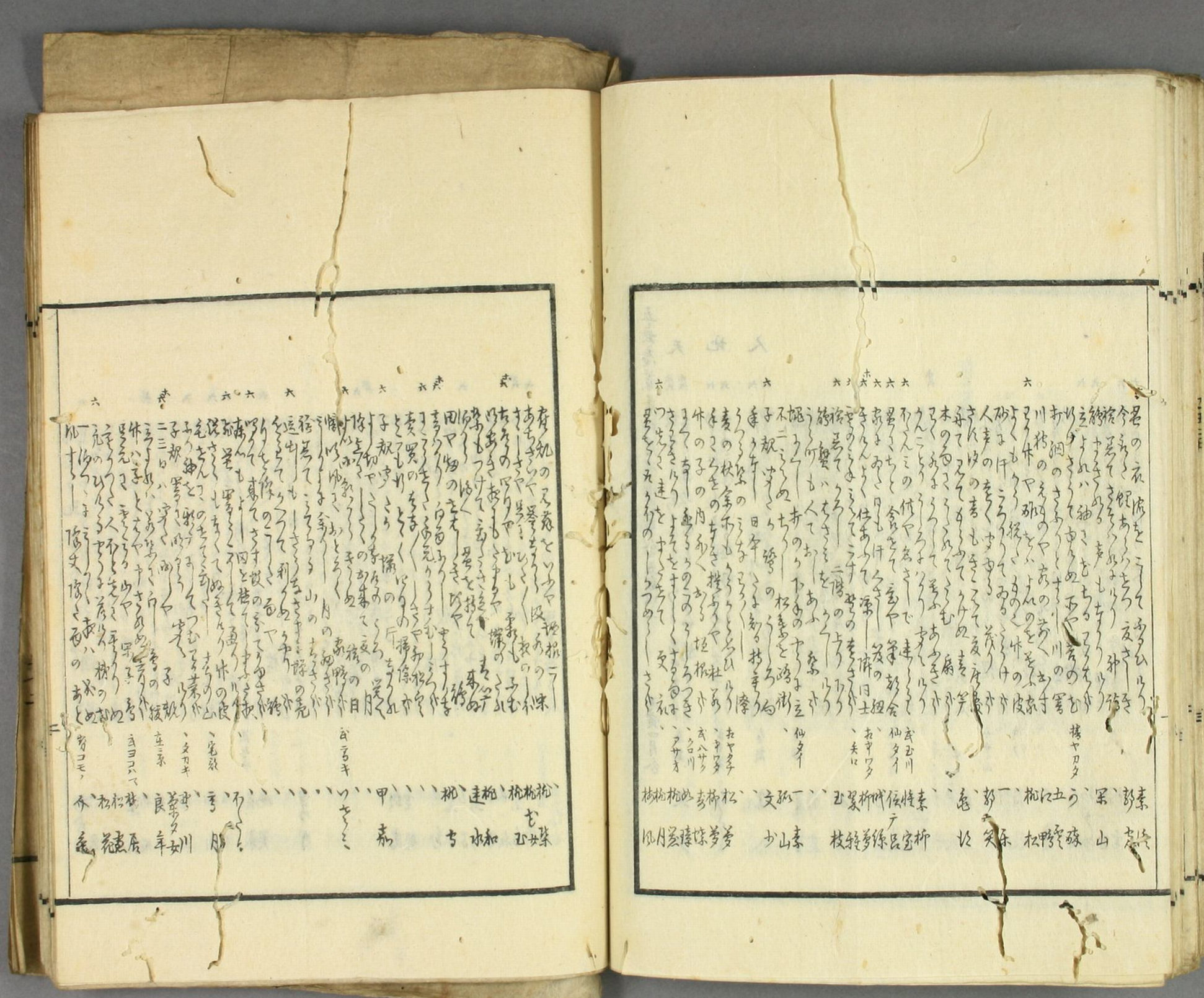
冥日選良　仁西堂　義梅物　礼月居　智不亭　仙蓼堂

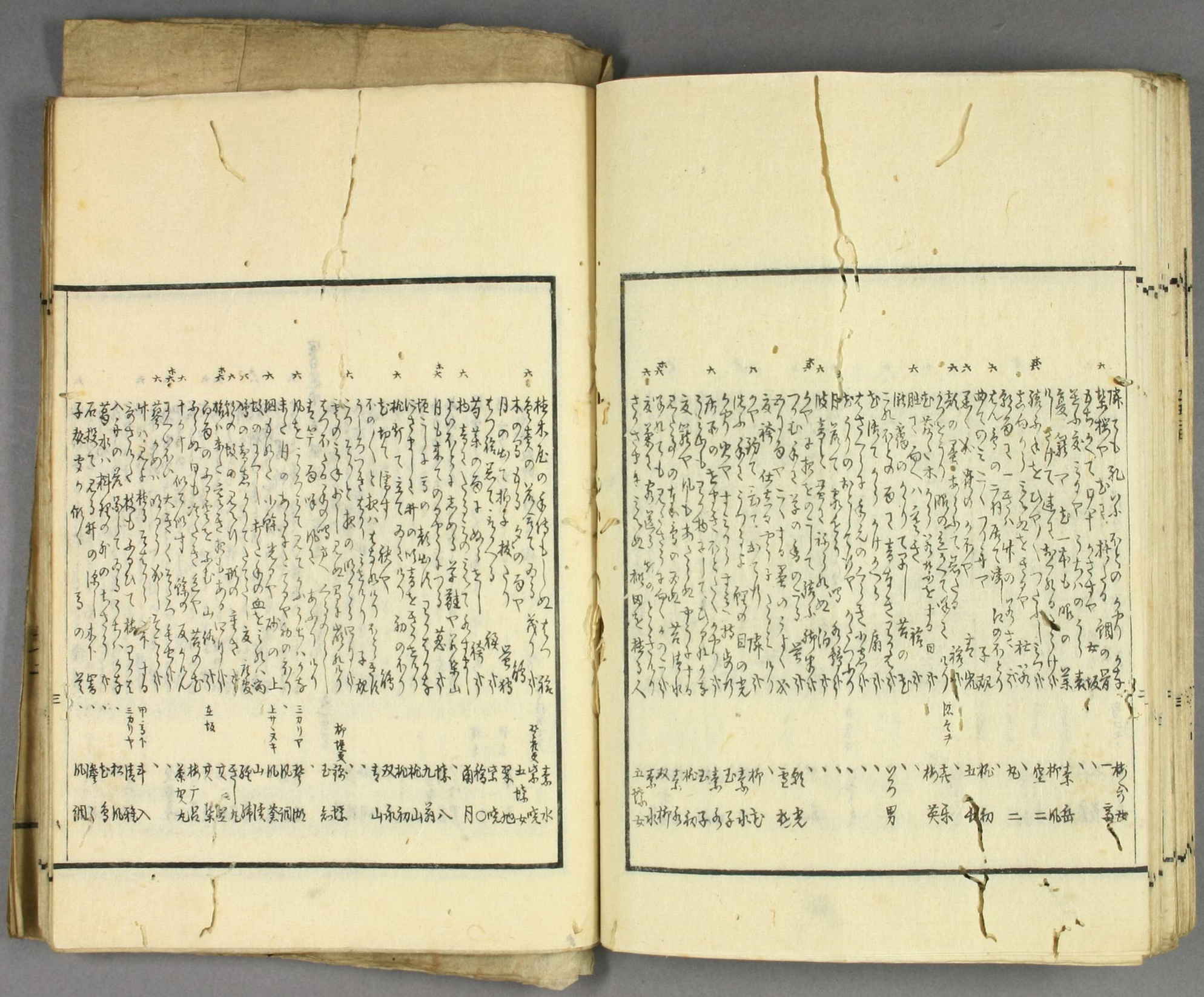
五要庵菜居評月次混題句合五点以上　丙寅四月分

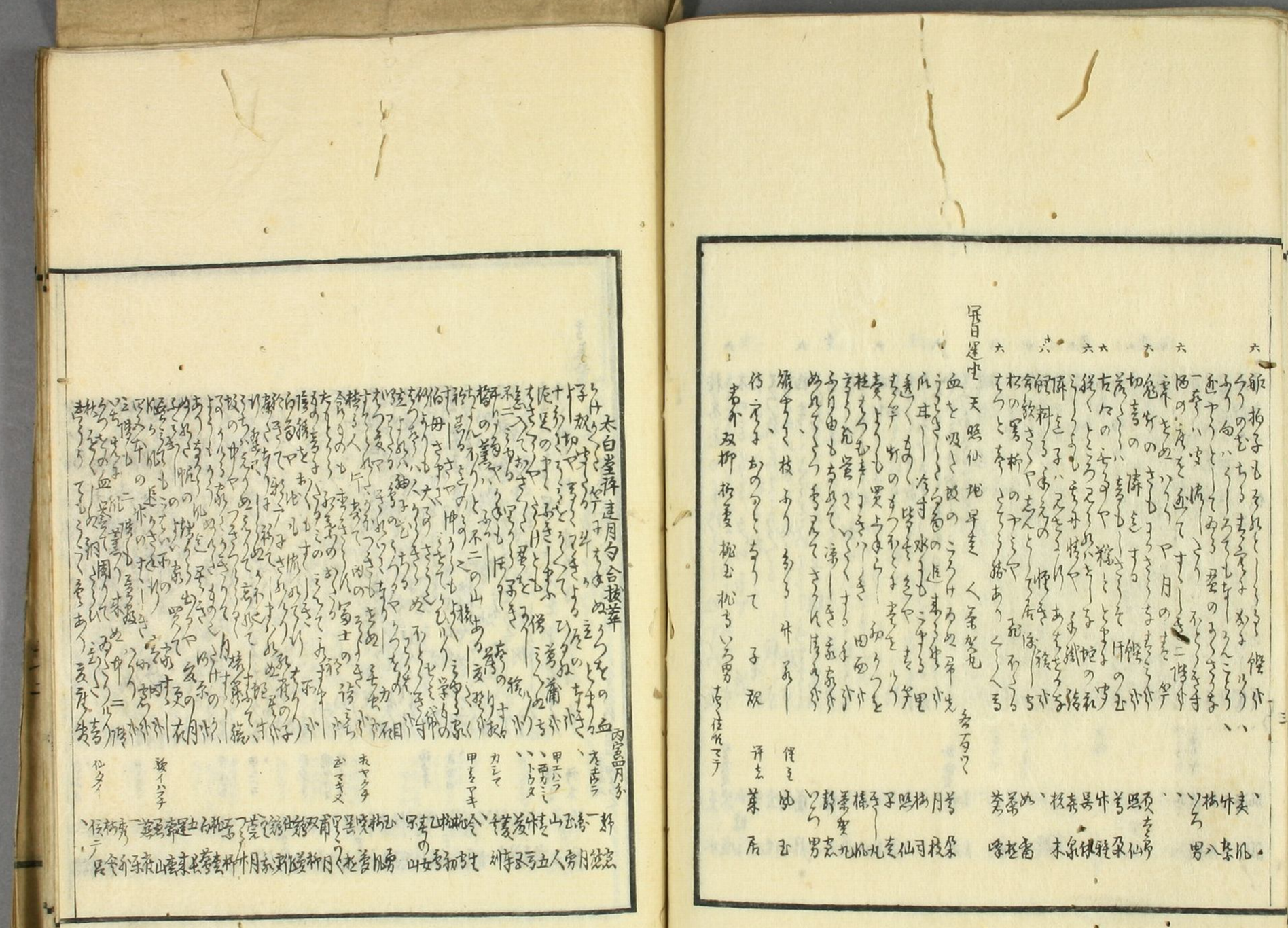
天　文少

地　大ユキ

人　蝶八







五無尾葉居評月次混題句合五点以上　　丙寅春分

天　巳ゝ羽ゝ引ゝ　武玉川　菱高
　　羽蟻ゝ
　　鉢の巻の色

地　丁字よ角ゝ　東故　都笑
　　牛ゝ
　　蛇の明ゝ

人　一因つちひめ　枕初
　　ゝ
　　飼の鎖

れ者ゝも　おうめ　甫
　　学の戸や悔の紙　月の丸ゝ
　　杉原ゝ　月の宮ゝ

　　甲子下　枕斗入
　　ゝ　ゝ

　　牛ゝ　ゝ　枕ゝ

　　ゝ　ゝ　文少

　　ゝ　ゝ　枕ゝ

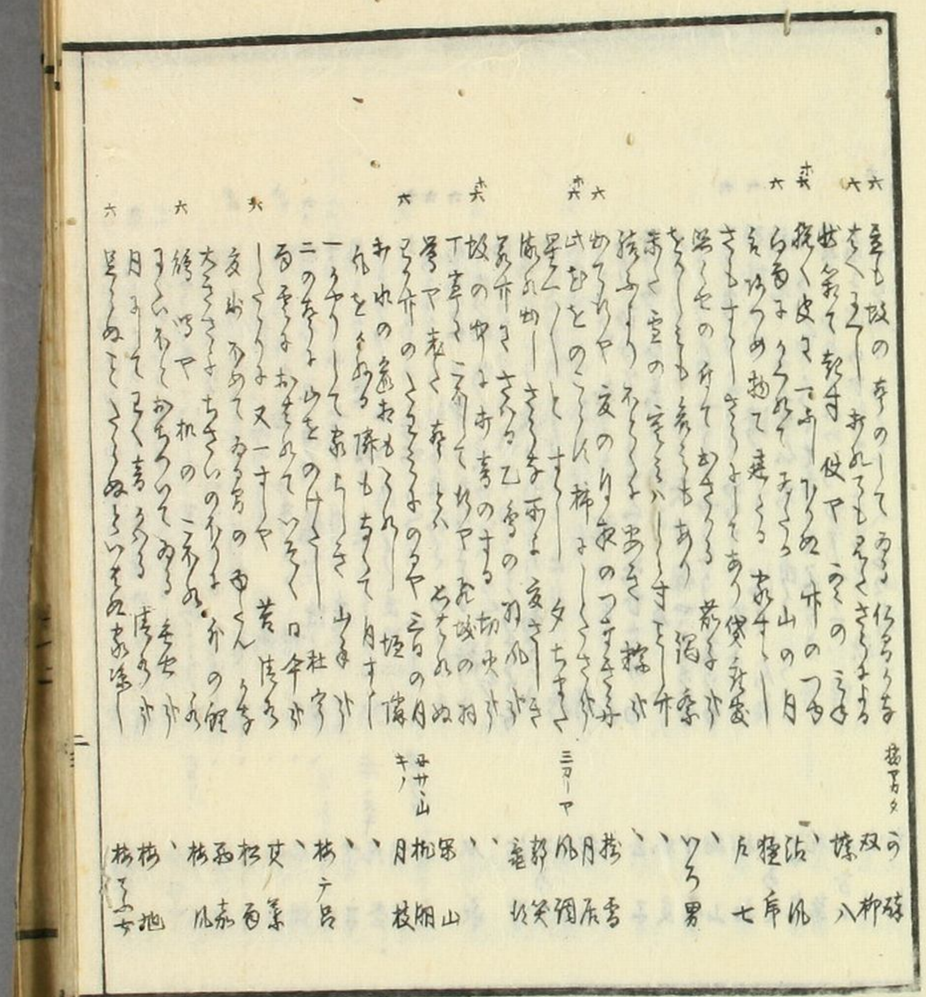
　　ゝ　ゝ　連水

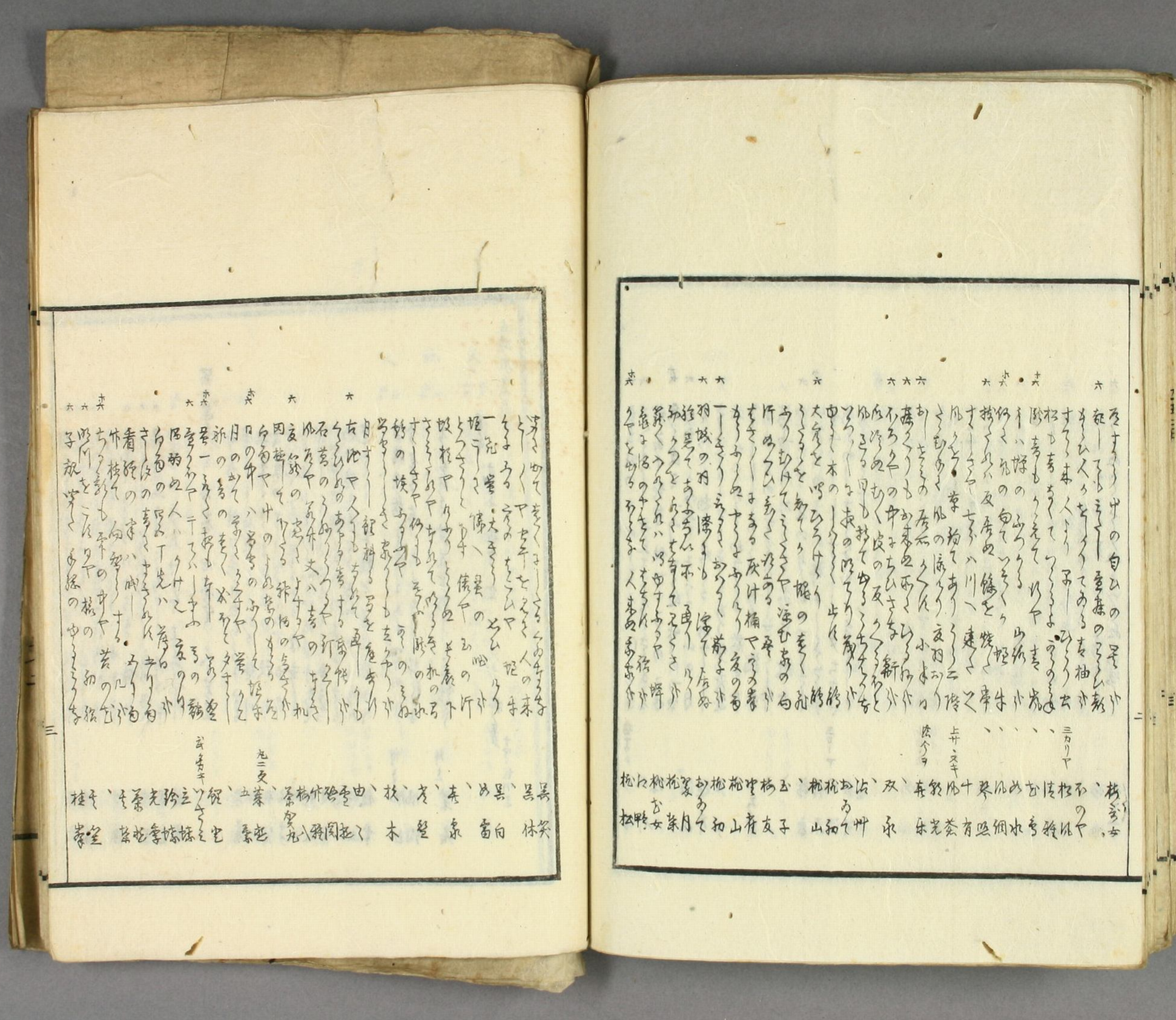
　　今の柄ゝ　杜宇
　　ゝ　ゝ

　　子の虎ゝ　武玉川　蛙宝
　　ゝ　ゝ

　　月ゝ　ゝ　文衣
　　ゝ　ゝ　枕ゝ

　　孔ゝ　ゝ　山
　　ゝ　ゝ　麥嘯女





五無尾菜居許月次浪歌合五点以上　　丙寅六月分

天　桜のさかりはいとはるかなれど　梅男　武アサカ　梅房

地　夏ひゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　玉川　時宴

人　宵の月　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　東都　休時

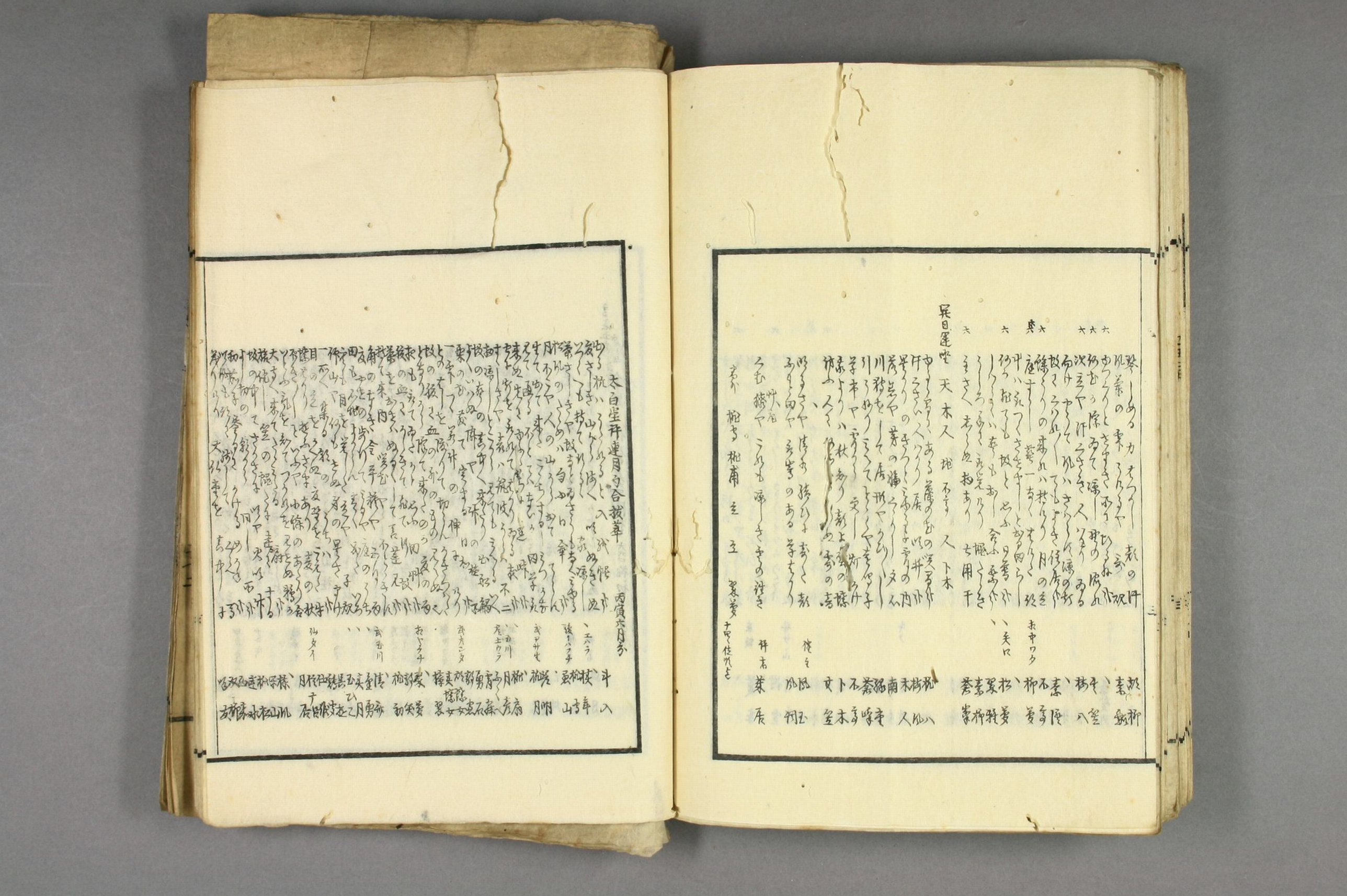
杭月　杭弓　杭巻　杭柳　菱　梅高　良　杭也　彭　おうめ　杭角　月居　三井　丹サ山　ねヤクチ　翠　翠　蓼　蓼　蓼

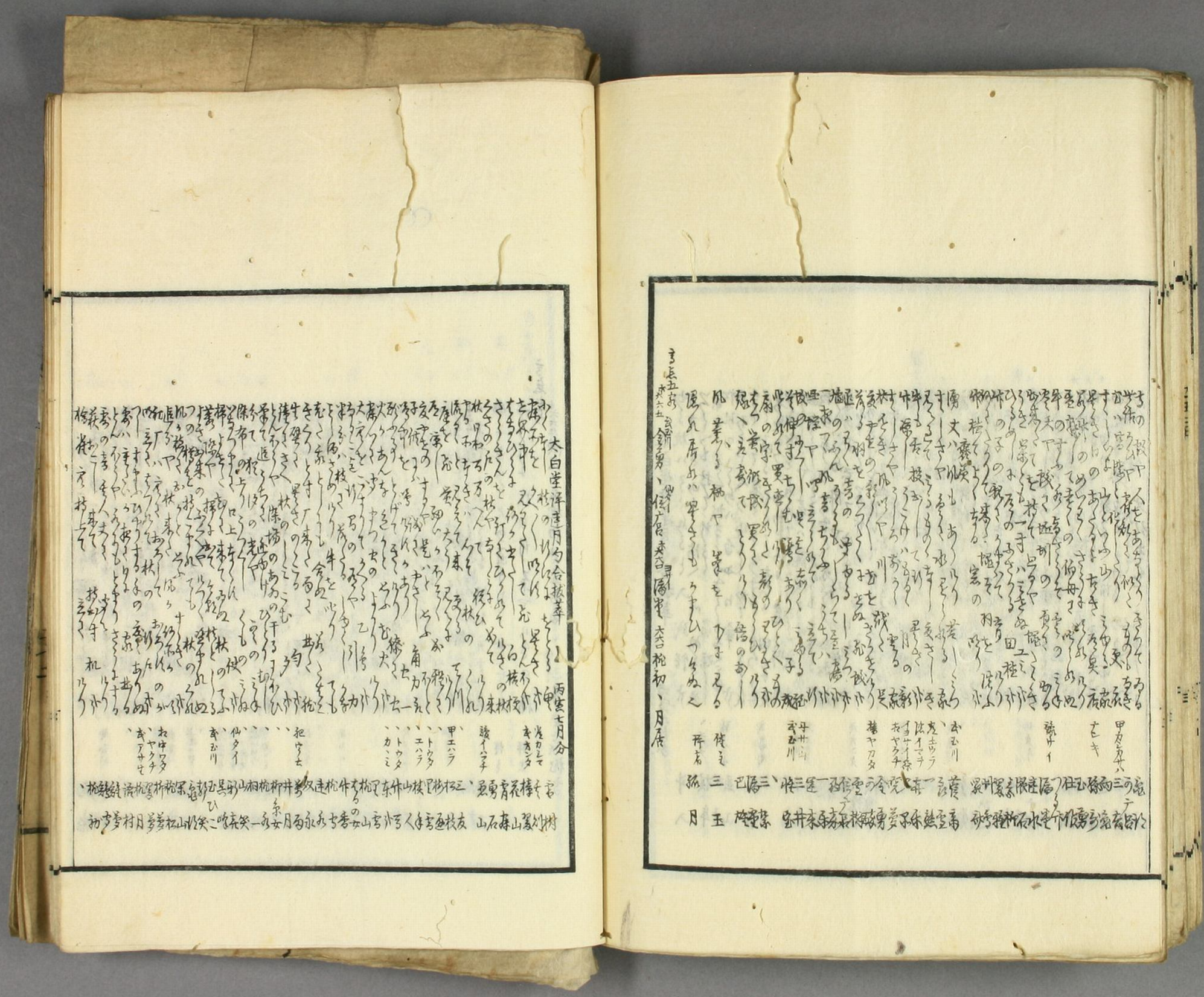
武蔵川　東　芝　杜宇

丹サ山　梅　梅　梅　朋　雪

武蔵川　柱　三　柱　宮　葉

梅　梅　梅　





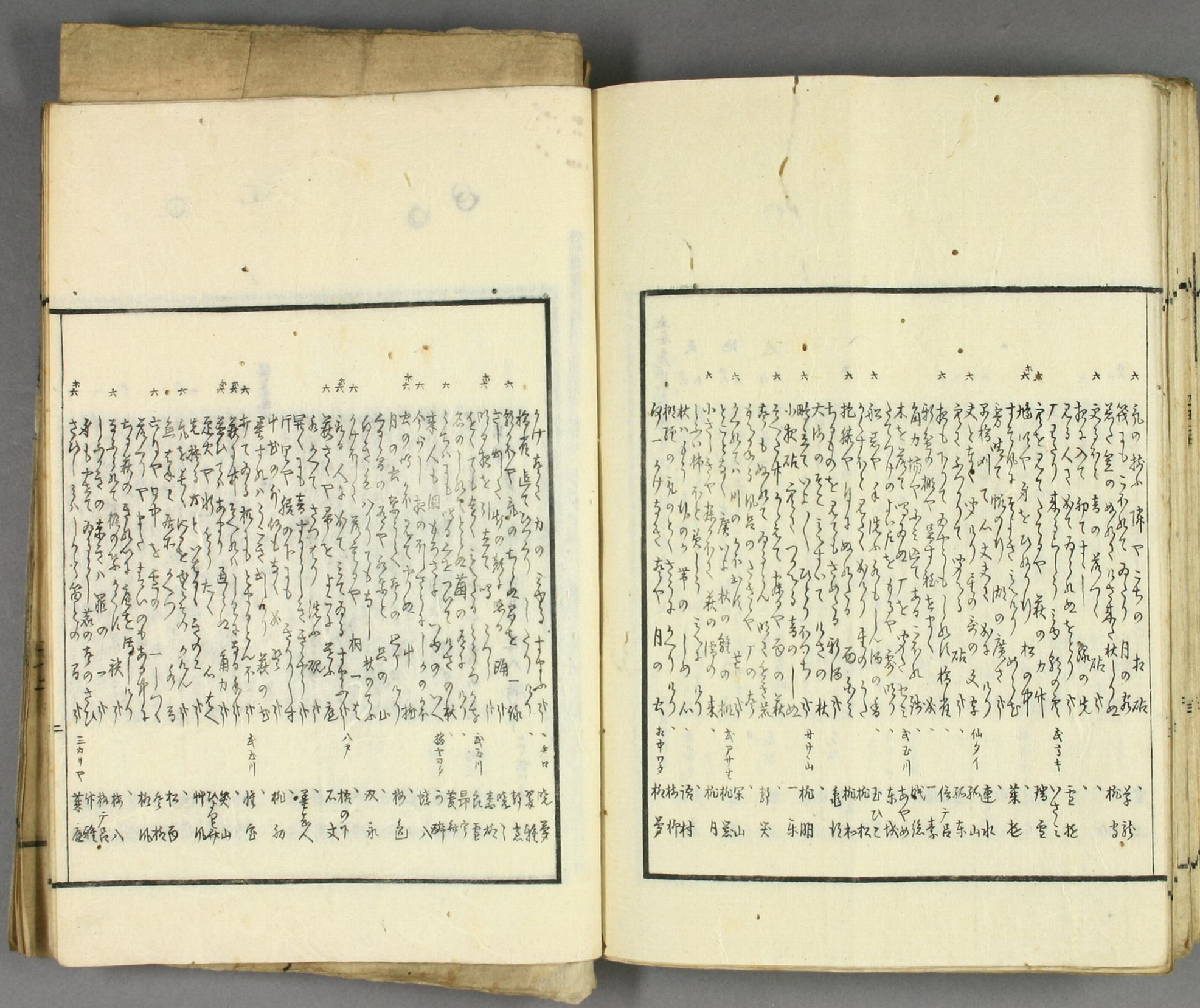
五色尾蓁居浮月次混題句合五番以上　　丙寅七月分

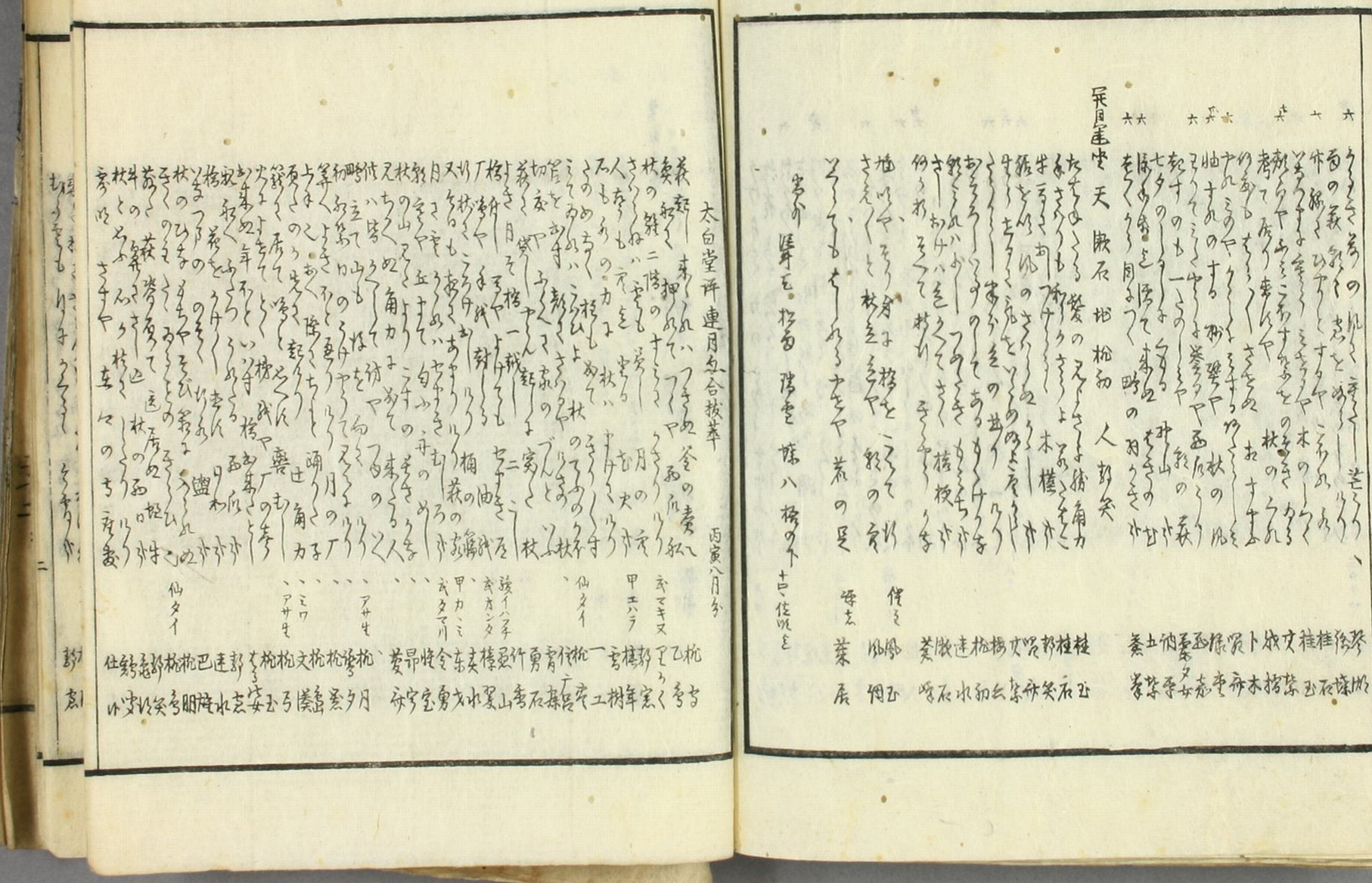
天　六六　桔梗　桔扇

地　六六　初秋の秋　玉川　菱高

人　六六　羽衣の秋　桂石

南月　左坂　菱寺　男　桔梗　英　桔梗　南　桔梗　乙州　秀　桔梗　弓　桔梗　雲　桔梗　天山　桔梗　雲　桔梗　山　桔梗　桂　桔梗　寺　桔梗　秀　桔梗　空　桔梗　二　桔梗





五無尾菜居評月次混題句合五点決上　　丙寅八月分

天　六　柔伸よりまつかぜの　東枝　桂　玉

地　六　書の次ぐや今を　初丁　丈　紫

人　六　瓜の花つめや　秋の山の　三カリヤ　夢　光

六　人為の作とかの　秋の　梅枝　甲　素　白

六　さをとりの　秋の　梅枝　赤　赤

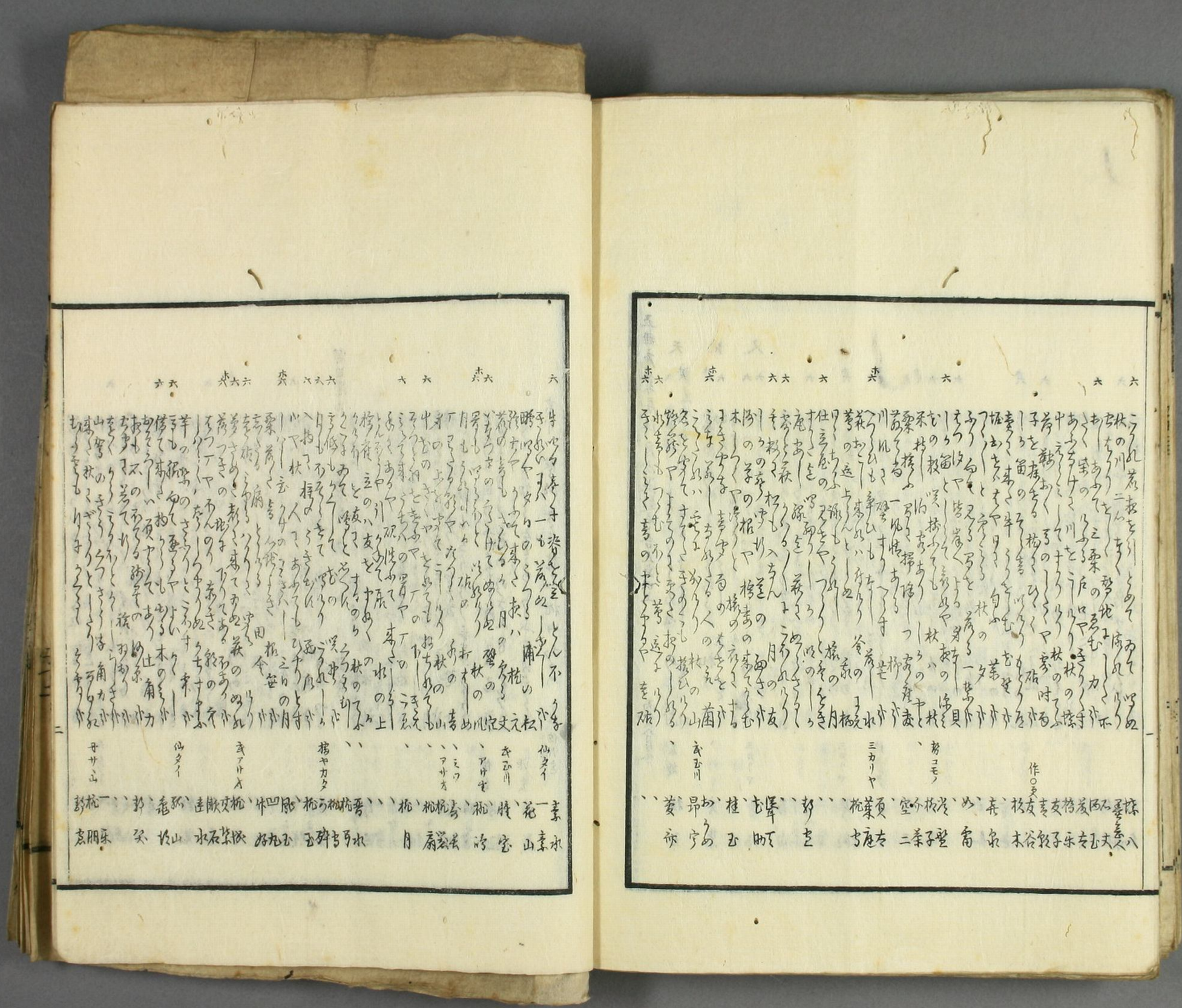
六　よりてそよぐ　秋の　梅枝　赤　赤

六　ほとうとぎす　秋の　梅枝　赤　赤

六　ほのかに　秋の　梅枝　赤　赤

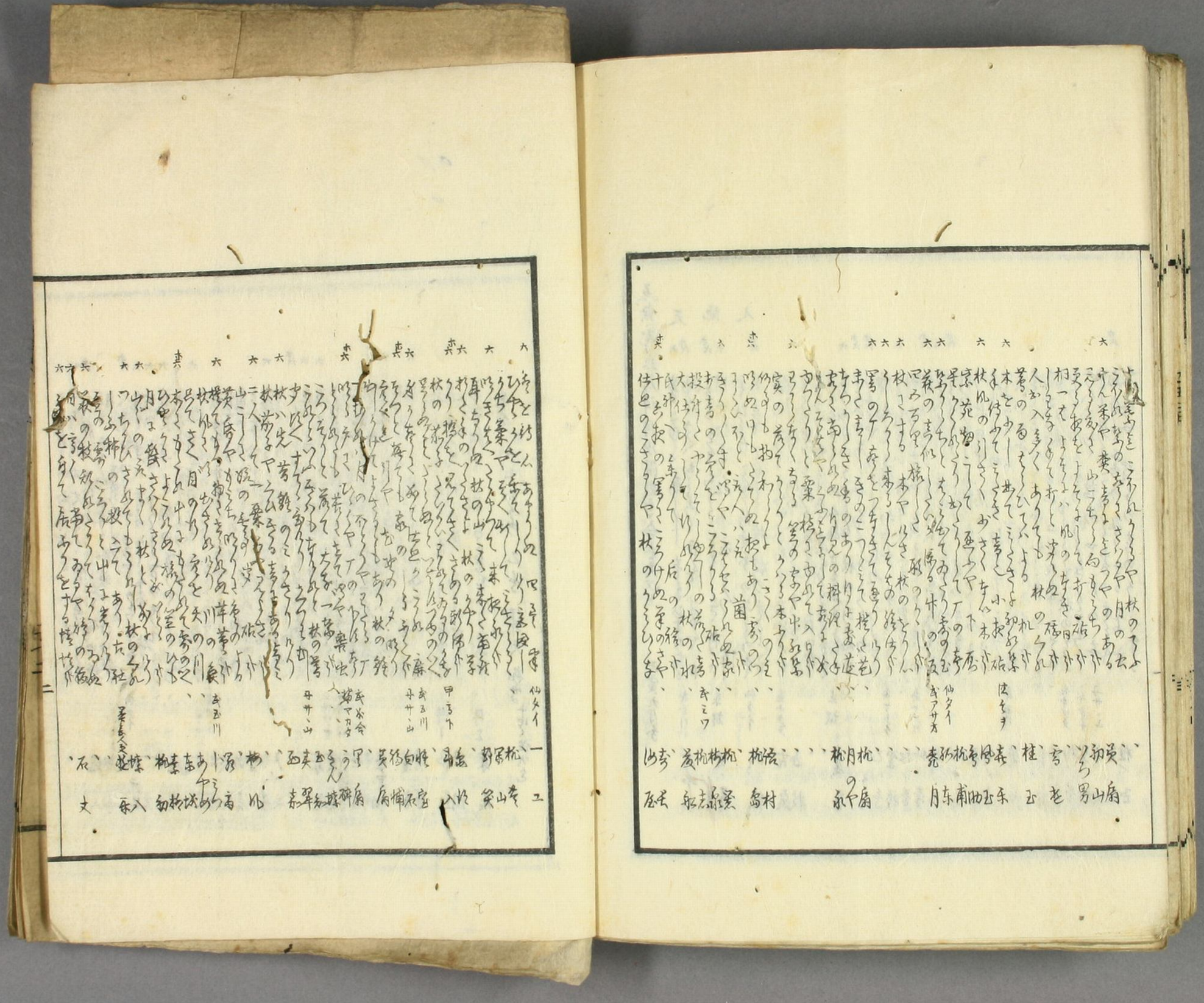
六　ほのかに　秋の　梅枝　赤　赤

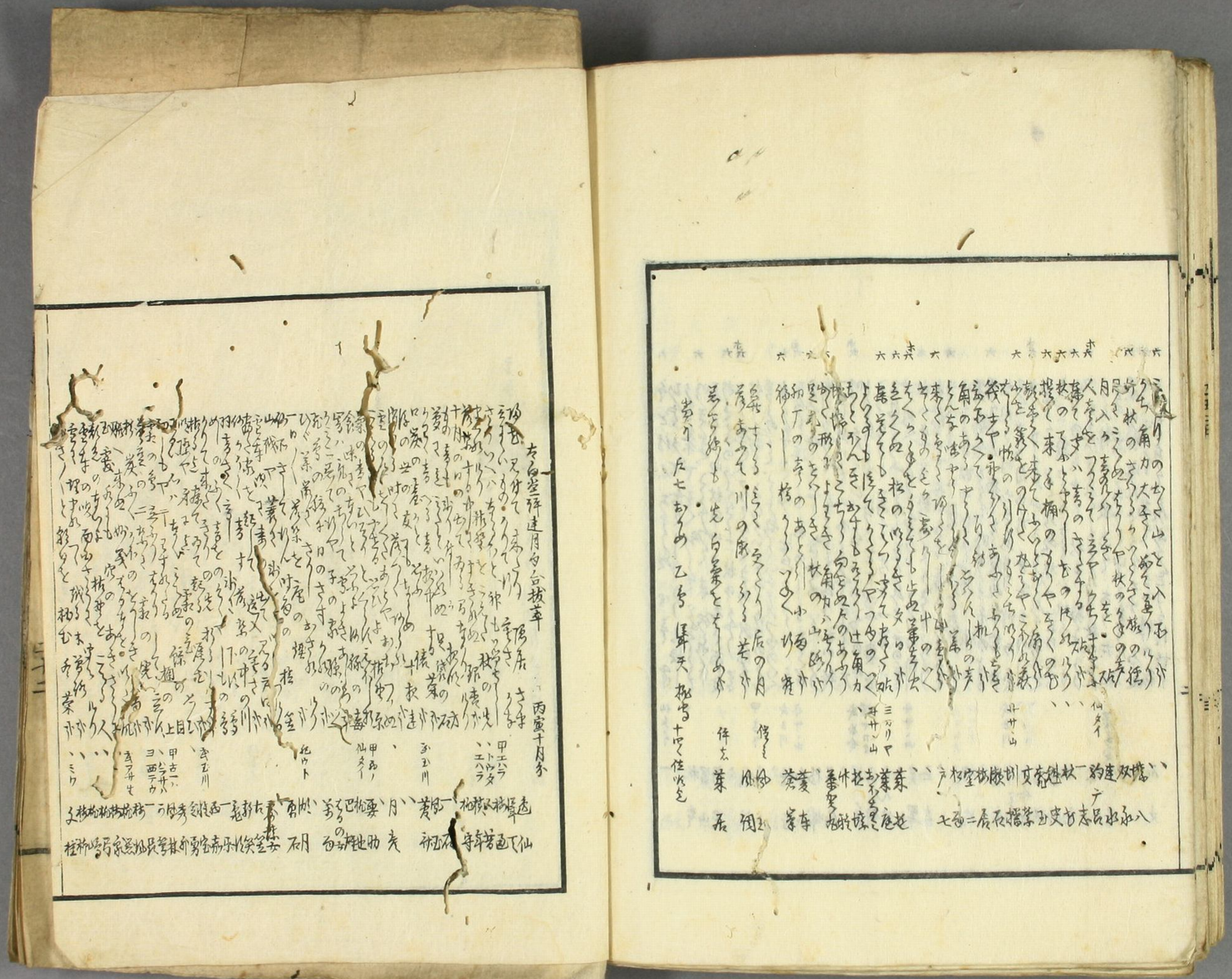
六　ほのかに



五無尾葉居評月次混題句合五矣以上　　丙寅九月多

天　水　葉　こ　ま　ま　ま





五月雨

月庵画

雨の音を聞とハ
芳耕園セト
其称

蛍を声の雨の雫
ゆゆ陰星の郭

一粟庵
橋鳥

[illegible]て[illegible]に[illegible]き田植ゝ　外ワ曲　[illegible]

[illegible]い菖蒲の[illegible]　一圭

いけ[illegible]の[illegible]を[illegible]　守令

[illegible]中より手[illegible]　[illegible]

[illegible]遠[illegible]首の[illegible]　豊秋

[illegible]ちも[illegible]　今ノ　[illegible]月

[illegible]やつゝぬ火口の根[illegible]　里雪

[illegible]　[illegible]　来丈

[illegible]や[illegible]　士序

[illegible]の中ふ[illegible]　五ノ節　一誠

月代[illegible]歌や[illegible]　三河　秋月

[illegible]月[illegible]　芳舟

[illegible]月[illegible]　文雅

[illegible]川文

[illegible]　大美

[illegible]　[illegible]

[illegible]　秋子

[illegible]　守令

[illegible]　[illegible]　三河　花縣　觀湖

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　里雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]外て[illegible]と田植て終
[illegible]の[illegible]や青苗
[illegible]の晴間[illegible]
水[illegible]の[illegible]
[illegible]雨も晴るあと[illegible]
[illegible]柏の秋もかりもし[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の晴[illegible]
[illegible]雖も[illegible]
菖蒲以風[illegible]気味[illegible]
[illegible]

何翁
春樹
[illegible]
[illegible]
[illegible]
花蕉
智[illegible]
亀[illegible]
六の花
麦飯
[illegible]
[illegible]

水[illegible]田植[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]菖蒲
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]のうち降つきさりて五月雨　山溪
晴わたる家の軒よりも高く菖蒲ぶき　養雲
日和よりなほ景気やさる梅雨　奥雪
言清き萩の露やしら玉　松陳
柱上る柳田よりあがる蛍　西大
神ぶ田ぬきを見ぬ人ぶ　キ隙
柱仕舞ふ田八重洲の[illegible]　一洋
[illegible]の火ろ[illegible]　呉葉
[illegible]水の絶え間[illegible]　寿溪
書うつして帰へるとけるさら[illegible]　循々
[illegible]　青生

降の雨と定めて[illegible]る田植うた
隙[illegible]ぶ[illegible]植り菖蒲ぶ　雲松
五月雨は日数[illegible]ぬ[illegible]や苗の[illegible]　今古風
さみだれの晴を[illegible]ぬ[illegible]　一孤
田作りを買ふ[illegible]田植の[illegible]　二雀
[illegible]せ[illegible]猫[illegible]り田植[illegible]　春楊
[illegible]ふ先へ又おと[illegible]　雲政
雨あがりて[illegible]ぬ[illegible]　桜島
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]田植ぶ　一洋
[illegible]て[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]や[illegible]　仲水
水と[illegible]　[illegible]月

雨風のめまし江新ふ信濃路

はし鳴也ほとゝぎす　恋　恒陳　花筵　里水

書きてめうちわく藪の蛍哉　雪松

一夜日のええで暮るゝ七月白　泉乐

さみだれ也濤てもゝく白の内　雲虎

さんかを踏てもゝ出ふ　東朝

関よりのゝくゝ中ゝ　五月下　袁こ

春ゝ日の松陰又とう上る雲角ゝ　花月

小御所も気拾きゝゝやゝゝ拾　通

書うらうゝ昔四葉　教あり寄の月　源史